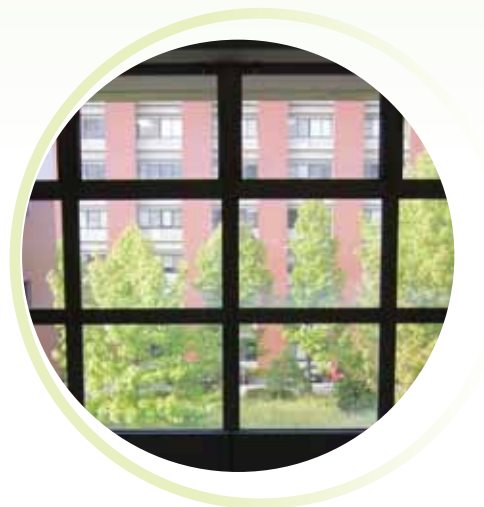


金沢大学 イノベーションレポート

金沢大学イノベーション創成センター
Center for Innovation Kanazawa University

Vol.4
2011-10



CONTENS

01 巻頭言

「構想力と産学官連携」

金沢大学イノベーション創成センター長・教授 吉國 信雄

04 アナウンス

04 産学官連携推進本部及びイノベーション創成センターについて

06 4部門紹介

- ・将来開拓部門
- ・連携研究推進部門
- ・知的財産部門
- ・起業支援部門 (VBL・インキュベーション施設)

12 金沢大学 大学等産学官連携自立化促進プログラム (機能強化支援型)

14 金沢大学 大学等産学官連携自立化促進プログラム (コーディネーター支援型)

16 イノベーション創成センタースタッフ紹介

17 客員教授紹介

18 産学官地域アドバイザー紹介

19 共同研究等について

19 平成22年度 共同研究一覧

25 JST A-STEP平成23年度

第1回 フィージビリティスタディ [FS] ステージ
探索タイプ採択一覧

26 知的財産・特許について

26 発明届出・特許出願状況

27 研究成果有体物の譲与・受入状況

28 平成22年度 公開特許出願一覧

30 平成23年度VBL使用プロジェクト一覧

32 制度・支援

32 (学外) 産学コーディネーターの紹介

33 (学内) 産学コーディネーターの紹介

34 広報

45 イノベーション創成センター刊行物の紹介

46 金沢大学の産学官連携の展開

ー最近の新聞報道等よりー

50 ご案内

50 科学技術相談について

50 技術アドバイスサービスについて

52 共同研究について

55 金沢大学イノベーション創成センター協会のご案内

56 金沢大学産学官連携関係者一覧



構想力と 産学官連携



イノベーション創成センター長

吉国 信雄

「出口を見据えた研究開発」という言葉を耳にすることがあると思います。特に意識することなく、「出口」「Exit」を言葉に出して語りあったりします。

ところで、出口って何でしょうか。「入口があるから出口がある」というのは、ある意味真実です。それが、お化け屋敷での肝試しであれば、入口から入り、とにもかくにも出口にたどり着ければ役割が終了です。

しかしながら、一般には、出口から出てからが一苦労ではないでしょうか。学校を例にとれば一目瞭然です。学校を出る事が目的ではなく、出てからが大切なことには、どなたもご異論はないことと思われます。

これは、産学官連携活動においても然りだと考えています。出口を出た先に何が待っているのか、その先は人任せの世界なのか、あるいは、自らが描く世界なのか。

出口から先を充実させ、それまでの入口から出口までの活動を無駄にしないためには、出口を出た先には何かがあるのかを描ききる構想力がこれからの産学官連携活動には不可欠ではないかと感じ始めています。

そもそも構想力とは何でしょうか。余り難しく考えても仕方ないので、私の場合は、「こうなりたい」「こうしたら皆が喜びそう」を基本に、出来上がりの姿、仕組みを想像して描くことではないかと思っています。

さる2月に、「北陸に次世代自動車基地を構築するために」をテーマとするイノベーションフォーラム2011を開催しました。

現代社会における自動車の存在は、人間の体に喩えれば、血流のようなものです。自動車の役割は、物流、人の移動、日々の生活維持活動にも及んでおり、自動車が社会を支える基盤といっても過言ではないでしょう。

“ドラえものどこでもドア”が普及するならいざ知らず、当面の間は、日常生活の必需品としての位置は続いていくもの考えられます。

「利用する立場に立ったとき、どのような問題が今後生じ、また解決していかねばならないのか」を議論しようと考えて開催したものです。

ふと思いつくだけでも、

次世代自動車とはどんなものなの？

電気自動車、ハイブリッド自動車、燃費の良いガソリン自動車、水素エンジン自動車などいろいろあるけど、どれなの？ あるいはすべてなの？

どのような社会インフラが必要なの？

次世代自動車に多様な種類があるとしたら、それを考えるだけでも頭が痛いなあ？

地域社会はどのように対応していけばいいの？

過疎地や山間地でも利用できる環境が生まれるの？

等々、いろんなことが考えられますが、そのためには、どのような技術が必要となり、また、どのような制度が必要となってくるのかを考えなければなりません。思い描くこと自体は夢があり楽しいのですが、実現しようとするれば大いなる困難があります。それが“出口”を出てからの世界ではないでしょうか。

構想力とは、単なる夢を描くことではなく、想定される技術的困難や制度面での困難さを予測し、それを克服していくための具体的手法を想起して実現していくことかと考えています。

このようなアプローチが今後大切になっていく気がしてなりません。

2月にフォーラムを開催しましたが、この10月からは「平成23年度 経営者のための次世代自動車最新技術・動向講座【北陸地区開催】」（社）中部産業連盟が実施）が石川県で開催されることになりました。次世代自動車関連分野への参入に関心がある企業の方々に参加していただくというもので、本学の教員も講師陣に参加していると聞いておりますが、期待するところ大です。

このようなアプローチは、次世代自動車に限ったことではありません。ありとあらゆる産業分野にも当て嵌まることと考えておりますが、「出口を見据えた研究開発」と「それを活用していくための構想力」が組み合わさることによって、産業の活性化を目指した産学連携活動が展開できるのではないのでしょうか。



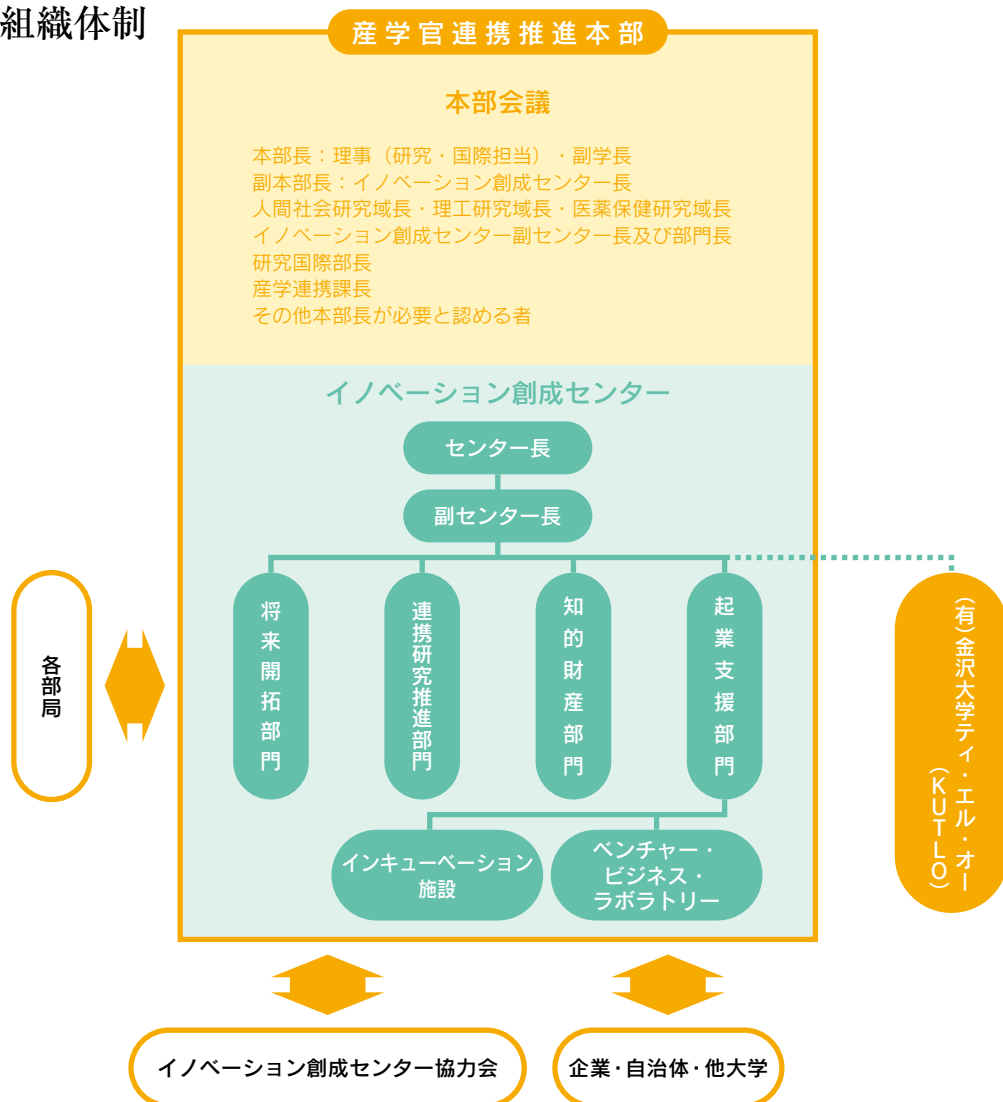
産学官連携推進本部及び イノベーション創成センターについて

産学官連携推進本部

金沢大学は、産学官連携・知的財産活動を本学の重要な使命の一つとしてとらえ、知的資源を活用した産学官連携による社会貢献及び研究の活性化を戦略的に推進することを目的として、副学長（研究・国際担当）を本部長とする産学官連携推進本部を平成20年4月1日から設置しました。

産学官連携推進本部は、産学官連携及び知的財産活動を推進するための戦略を立案し、関連組織との連携・調整を行います。

組織体制



イノベーション創成センター

イノベーション創成センターは、金沢大学の産学官連携・知的財産活動の中核の組織として、平成 20 年 4 月 1 日から設置されました。イノベーション創成センターは、平成 19 年度までの共同研究センター、知的財産本部、インキュベーション施設及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを統合し、新たに 4 部門（将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門）となっています。イノベーションの創成が果たす社会的貢献の意義を重要視し、より一層の産学官連携・知的財産活動による研究成果の社会還元及び教育研究の活性化を推進することを目的としています。

同センターは、イノベーション創出のプラン・体制を構築する将来開拓部門、イノベーション創出を加速する研究活動を推進する連携研究推進部門、イノベーション成長の戦略を固める知的財産部門、そしてイノベーション成長を飛躍させるための起業化を支援する起業支援部門の 4 部門から成っており、プロデュース機能である「イノベーションの創出」とコーディネート機能である「イノベーションの成長」が有機的に発揮される組織となっています。また、当センターは文部科学省の「大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）」を推進し、各部門を横断的にサポートしております。

イノベーション創成センターは、産学官連携推進の学内外の窓口として、将来開拓部門、連携研究推進部門、知的財産部門及び起業支援部門の 4 部門で構成されており、各部門の機能は、次のとおりです。

(1) 将来開拓部門

産学官連携に関係する社会情報の分析、将来構想に関する研究、産学官連携の分野における人材育成、産学官連携・知的財産活動への助言・評価を担当します。

(2) 連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進及び支援、共同研究及び受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

(3) 知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産ネットワークの充実及び管理、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

(4) 起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院学生及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。



部門長

吉國 信雄

イノベーション創成センター長・教授

平成22年4月から将来開拓部門長を併任することとなりました。将来を開拓するわけですから、当部門の役割は、“まさか”あるいは“無理じゃないの”と思われている分野へ、思い切り挑戦することではないかと考えています。そのためには、大学が有している“シンクタンク機能”を最大限に発揮させることが必要と考えています。イノベーションの阻害要因には技術的要因のみならず社会的阻害要因もあり、自然科学から人文社会科学分野の幅広い分野の研究者を擁している大学の役割は極めて重要になってきているものと考えています。

Department of Future Planning

将来開拓部門

産学官連携の新たな可能性を積極的に探っていく活動を担当しています。

将来開拓部門は、センター他部門（連携研究推進部門、知的財産部門、起業支援部門）の活動を円滑化させるための役割を担っています。

産学官連携の基礎的戦略研究を行っています。

- 地域経営における産学官連携のあり方
- 地域経営における知財管理手法
- 国際競争力確保のための農商工連携

地域にイノベーションを創出するための具体的な活動を展開しています。

- 大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)の企画・実施を支援
- 幅広い学内外のネットワークの構築
- 学内資源の把握・発掘及び地域資源の把握・発掘

将来開拓部門は、“まさか”に挑戦する部門です。

- 農商工連携と医商工連携、更には、教育、観光も連携する仕組みを構築したい。
- 食生産のハブ基地を構築できないものか。
- 地域経営という視点に立った知財管理で、過疎地に人を呼び込む知財の活用を提案したい。
- 地域ブランドを守るため、“標準化”や“認証システム構築”による、新たな仕組みを構築したい。

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111 Fax. 076-234-4019

innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

部門長
渡辺 良成
教授



連携研究推進部門は、北陸地域、国内外を問わず種々業種の企業から技術相談および共同研究を受付け、総合大学ならではの強みである多分野の教員・研究者、計1,000名の中から適任者をご紹介します。また、共同研究企業に加え、学内教員方に対しても、産学連携研究助成金等、競争的研究資金応募への支援を重要な業務として活動しております。部門担当教員は、アカデミック研究と企業研究所での研究統括の経歴経験を生かし、さらに、企業での研究開発成功体験を豊富に持つ専属の産学官連携コーディネータとチームを組んで活動することにより、産学双方の立場を踏まえた「金沢大学型」の支援実績を積み上げております。学内外の別なく、お気軽にご相談下さい。

Department of Joint Research

連携研究推進部門

産学官連携の企画・推進および支援、全学の共同研究・受託研究の推進、技術相談、産学官連携に関する研究及び教育を担当します。

金沢大学は、**産学官**が共通の課題について**連携**することで、より**卓越**した**研究成果**を生み出します。

企業および教員への支援実績例

- 1 企業の研究開発ニーズと業種・企業規模をも考慮した共同研究のコーディネーション・マッチング活動
- 2 総合大学の特性を生かした、研究開発に関わる多分野からの技術相談、技術アドバイスに最適の教員紹介
- 3 競争的研究費・民間等助成金を問わず産学官連携研究資金の情報提供と応募申請書・報告書作成支援
- 4 産学官連携関連展示会・技術シーズ発表会等による教員の研究シーズ、共同研究成果等の発信支援
- 5 教員による企業・工場訪問、企業研究者による大学先端機器利用実験支援など双方向連携活動の場形成

共同研究制度について

共同研究とは、企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について対等の立場で共同して研究を行う制度ですが、企業に「研究部門・研究者」がない場合も、ご相談ください。

共同研究・技術相談対応教員や課題の探し方

- イノベーション創成センターHPの「金沢大学教員総覧」より「研究分野別検索」・「キーワード検索」を試みましょう。
- 同HPの「共同研究実施状況」より、過去の共同研究実施テーマも検索できますが、対応課題は、これらに限定されません。



金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町
Tel. 076-264-6111 Fax. 076-234-4019
innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp



部門長
分 部 博
 准教授

知的財産部門を担当させて頂く分部と申します。大学の使命である社会貢献を担うイノベーション創成センターの中で、知的財産部門は、大学の知財戦略の企画・立案、知財の発掘・活用を行う部門です。大学知財の本来の姿は、ロイヤリティ収入を得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段となるべきと考えております。このため、私は大学の敷居をなくし、企業と大学間の関係を密にして、大学知財における本来の姿の実現に邁進したいと考えております。

Department of Intellectual Property

知的財産部門

知的財産戦略の情報収集及び企画立案、知的財産に関する研究及び教育、知的財産の発掘及び管理並びに研究成果物の管理を担当します。

「知の創出、保護、活用、研究への還元」の「知的創造サイクル」の一翼を担う、これが大学の知的財産権です。

大学の成果により社会貢献を果たすために

大学の知的財産権は、公的資金の獲得、共同研究・受託研究の獲得・継続など、大学の成果が社会で最大限活用されるための手段として活用されます。

1.活動基本方針

知財活用による研究活動の促進!

知財には、研究成果を権利として保護する側面と、研究シーズの有効性に対して客観性をもたらす側面があります。前者から、ライセンス収入の確保が期待され、後者から、公的資金の獲得促進、受託研究・共同研究の獲得・継続促進が期待されます。

2.具体的な活動

①研究成果の法的保護強化

平成22年特許出願70件(平成21年度実績:59件)目標としており、研究室訪問、外的資金申請時、共同出願締結時などにおける発明発掘を行っております

②啓発活動の強化

- i) 教員向けには、各種知財セミナーを実施し、個々の研究室への個別知財支援活動も実施する予定です。なお、昨年度はiPS細胞講演(7/23)、産学官連携セミナー(10/27)、医療行為審査基準説明会(1/28)などを行いました。
- ii) 学生向けには、特許セミナー(5月から)、アントレ学(6月2回)、知財マネジメント(7月2回)、知財戦略(10月3回)を実施しております。なお、特許セミナーでは、一昨年1名、昨年2名の学生が自ら特許出願をしております。

③包括連携の推進

大学本来の役割を考えると、既存のニーズとシーズのマッチングより、未存在シーズと将来ニーズのマッチングに向けた取組みが必要で、複数の企業とその方向性を検討しております。

④知財基盤整備

- 大学の知財基盤を更に強化するため、
- ・登録報償から出願報償への変更、ライセンス収入報償変更など報奨制度の変更を検討しております。
 - ・人材の流動化に対応した教員の異動(転入・転出)時の成果有体物の扱い指針の確立、その契約書整備を図っております。
 - ・費用削減に向けて、事務所評価基準の新設などを検討しております。

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel. 076-264-6111 Fax. 076-234-4019

innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

部門長

高橋 光信

理工研究域 物質化学系 教授

昨年4月より起業支援部門長を兼任しております高橋（理工研究域物質化学系）です。起業支援部門では、アントレプレナーシップ（起業家精神）やMOT（技術経営）に関わる授業や講演をコーディネートし、また、商品化・事業化に結び付く可能性のある研究シーズ発掘などの事業を通して、学生や若手研究者の起業家精神を育成するための教育支援を行っています。さらには、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー施設やインキュベーション施設を活用したベンチャー起業化支援などの事業を通して、本学の研究成果の社会への還元を推進して参ります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



Department of Entrepreneur Promotion

起業支援部門

ベンチャー起業化及び事業化に対する支援、大学院及び若手研究者の創造性を養成する教育プログラムの実施、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発プロジェクトの推進を担当します。

起業家精神の醸成

大学発ベンチャービジネスの支援

コーディネーター、外部専門家の協力のもと、金沢大学の理工学技術・医薬保健学技術（農学）+人間社会学技術を結集したベンチャービジネスへの支援

- 大学院生、若手研究者起業ベンチャー
- 教員起業ベンチャー
- 企業と大学連携ベンチャーなど



イノベーションの創出

近い将来、起業化が見込まれる教員プロジェクト研究の募集と選考、研究員の採用、研究費補助、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）施設・設備の提供などを実施します。また、大学院生による起業化が期待される研究テーマの募集選考と研究費補助など、イノベーション創出の芽を育成し、起業化されたベンチャーへのインキュベーション施設の利活用とマネジメント支援を行います。

- ◆ 生体機能技術
- ◆ 環境保全技術
- ◆ 薬・食品関連技術 など

イノベーションの流れ



起業家のための教育体制

学生への起業家精神の醸成のために、ベンチャービジネスに関わる講義・演習、ビジネスプランコンテスト、さらに講演会・講習会、セミナーなどを実施します。そして、大学院生を対象として、本学産学官連携に関わる教職員や金沢大学TLOなどによる、MOT（技術経営）教育や講演会などを実施します。

金沢大学イノベーション創成センター

〒920-1192 石川県金沢市角間町
Tel. 076-264-6111 Fax. 076-234-4019
innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

www.innov.kanazawa-u.ac.jp

起業支援部門は、次の①ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）と②インキュベーション施設の管理・運営を行っております。

① ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー施設は、起業家を目指す学生の教育を目的とした学内共同利用研究教育施設として、平成16年4月に設立され、同年6月より本格運用されております。

人間・環境システムの解析・設計技術の研究開発をテーマに、ベンチャー化を目指す研究プロジェクトを募集し、研究・教育を支援しています。学生を対象とした研究指導やセミナーを通してのベンチャーマインドの高揚、大学で行われている研究の起業化へ向けての具体的なアドバイスを（有）金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO）と連携して行っております。

施設としては、3～5階に研究室、3階プレゼンテーションルーム、5階セミナールームを設け、随時プロジェクトを募集しております（1～2階は先端材料科学ラボラトリーです）。3階プレゼンテーションルーム、5階セミナールームでは、無線LANなどを設備し、PCを使用した研修、研究会などが可能です。



研究室



3階プレゼンテーションルーム



5階プレゼンテーションルーム
(院生研究室)

従来からの博士研究員数名に加えて、平成21年度から客員教授として瀬領 浩一先生を迎え、セミナー、コンテストなどを強化し、より学生の教育に重点をおいています。

平成20年度からイノベーション創成センターの起業支援部門となったことにより、VBLで教育・支援を受けた学生・教員がインキュベーション施設で起業し、自立できるようイノベーション創成センター協会ならびにKUTLOと連携し、地域発展への貢献を目指しています。

② インキュベーション施設

インキュベーション施設は、大学におけるインキュベーション機能の強化を目的に、学内共同利用施設として、平成14年に設置されました。金沢大学の研究成果や人的資源を活用して、ベンチャー企業を起こそうとする方、あるいは起こされた企業に対し実用化研究の場を提供し、支援を行います。平成15年4月より本格稼働しており、現在プロジェクト開発室には、ベンチャー企業数社が活動しております。



(左) インキュベーション施設
(右) イノベーション創成センター

施設1Fには、各種イベントや講義に利用可能な、セミナー室と会議室も完備され、随時利用可能です。また、展示・交流スペースは、パネル展示、各種刊行物などによりセンターの事業紹介や研究紹介を行っており、セミナー終了後の交流の場や、打合せスペースとしても利用可能ですので、是非ご利用ください。



セミナー室：60名収容
※プロジェクター等完備



会議室：20名収容



展示・交流スペース

利用申込

プロジェクト開発室

空きがある場合、随時募集。

(ただし、全室使用している場合は、使用責任者へ継続確認後(3年を限度)、年度末に募集通知いたします。所定の申込書により申請可能。)

詳しい、仕様や使用料等については事務室まで、お問合せください。

セミナー室・会議室

- 空き状況の確認と仮予約

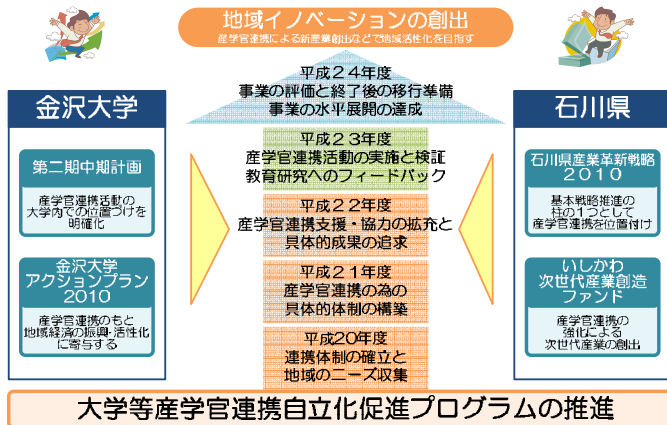
利用申込は、先着順受付となっておりますので、空き状況の確認をイノベーション創成センター事務室へお電話またはE-Mailにてお問合せください。

(事務室 TEL:076-264-6111 E-Mail:innov@adm.kanazawa-u.ac.jp)

金沢大学等産学官連携
自立化促進プログラム
(機能強化支援型)

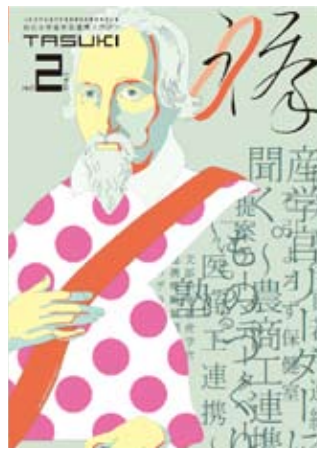
大学等産学官連携 自立化促進プログラム (機能強化支援型)

大学等産学官連携自立化促進プログラム
(機能強化支援型)では、
「地域」「事業化」「人材育成」の
3つを特色として掲げ、
産学官連携による地域イノベーションの
創出を目指した活動を推進しています。
平成20年度～24年度の五カ年事業で、
石川県が主要テーマとして掲げる
「農工商連携」「医工商連携」に
力を入れ、地域と共同歩調をとり、
大学ならではの視点やシーズを活かした
「事業化」を目指しています。



【平成20年度～平成22年度までの活動内容】

詳しくは「大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）」報告書
金沢大学産学官連携マガジン「襷（たすき）」をご覧ください。



**若手産学官
大手連絡会**

平成20年度から、全国の大学で産学官連携や地域社会連携に携わっている若手実務者の方々をお招きし、各地の取り組みや事例や意見交換を行う地域横断的な会を開催しています。

ビジネスクリエイト道場のご紹介



■平成20年度

文部科学省産学官連携戦略展開事業 平成20年度 ビジネスクリエイト道場

『食』農商工連携による新しいビジネスの 事業化支援ワークショップ



参加者 ● 『食』に関連する生産者・加工業者で、具体的な事業プランを持つ事業者・企業の方
● 農商工連携に関心のある行政機関、大学等研究者

20年度のテーマは「農商工連携」。新たな『食』ビジネスを考えている事業者の皆様を対象に、ワークショップ形式でご参加頂き、最終的にバイヤーを相手にプレゼンを行うなど、産学官でアイデアの事業化にチャレンジしました。

■平成21年度

平成21年度 農商工連携 ビジネスクリエイト道場



七尾市の推進する「農商工連携」「地消地産」と更なる連携を目指し、産学官による農商工連携を強化するために、平成21年度 農商工連携ビジネスクリエイト道場/準備会を開催しました。

産学官連携による『医商工連携』の
いしかわモデルを考える。

健康福祉の視点から優先的に取り組むべき地域の重点課題を、地域産業の特性・成長性の要素から注目すべき分野や業種を、それぞれ明らかにし、『医商工連携いしかわモデル』のあり方を考えました。

平成21年度 医商工連携 ビジネスクリエイト道場



■平成22年度

平成22年度 農商工連携 ビジネスクリエイト道場

七尾市・
食の部品化による
6次産業化



拡大「農商工連携」
ビジネスクリエイト道場

「事業マネジメントの4つの
プロセス」とこれから目指す「価値」

文部科学省補助事業「イノベーションシステム整備事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)」において、これまでの活動総括と今後の活動方針を明確にすることを目的とする、「拡大「農商工連携」ビジネスクリエイト道場」を開催しました。

平成22年度 医商工連携 ビジネスクリエイト道場



小松市・南加賀の健康増進拠点化

財団法人北陸体力科学研究所と金沢大学医薬保健研究域附属健康増進科学センターが連携し、平成22年度から、産学官が連携した「小松市・南加賀の健康増進拠点化」の事業化に向けた取り組みを行っています。

産学官リーダーに
聞く。

■平成21年度

【農商工連携】独自の冷凍・解凍技術を活用し、七尾産の野菜や鮮魚を都市圏へ

金沢大学イノベーション創成センターは、七尾市や関係団体が地元産の農産物や魚介類の消費拡大を目的に設立した「七尾市漁業農業発展協議会」に参画しました。そこで、七尾市の武元文平市長と金沢大学イノベーション創成センターの吉国信雄センター長、さらに、システム・インテグレーション(株)代表取締役・金沢大学客員教授の多喜義彦氏を交え、産学官による農商工連携の可能性などについて話し合いました。



■平成22年度

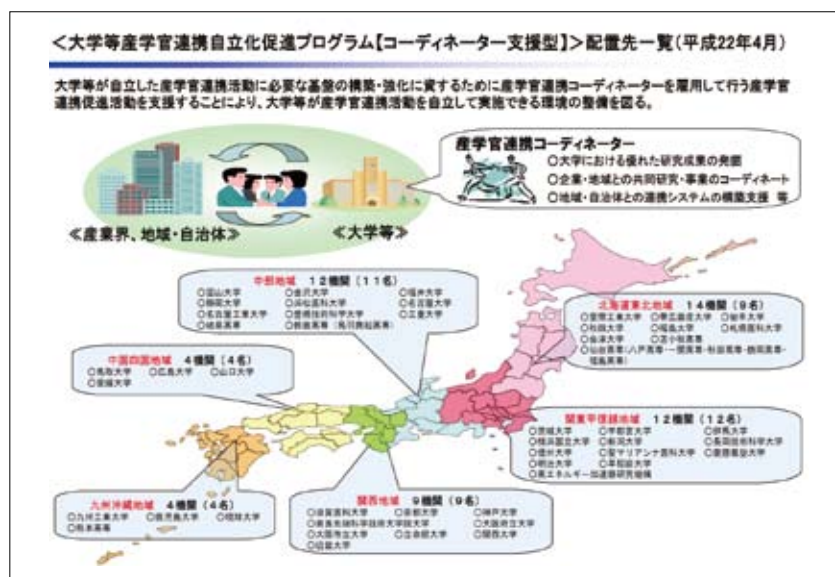
【地域経営と知財管理】「着眼大局、着手小局」大きな目標を見据え、足元から実行を

金沢大学イノベーション創成センターは、農商工連携などによる“事業化”を目指してさまざまな活動を展開。プロジェクトを進展させ、事業化という果実を手にするには、今後どのような取り組みが必要となるのか。金沢大学イノベーション創成センターの吉国信雄センター長が、石川県立大学生物資源環境学部食品科学科教授・理学博士の野口明徳氏、みさき国際特許事務所代表・弁理士の横井敏弘氏と話し合いました。



イノベーションシステム整備事業 「大学等産学官連携自立化促進プログラム (コーディネーター支援型)」について

我が国全体に漂う閉塞感を打破し、新産業創出、国際競争力強化、エネルギー・環境問題への対応、安全安心な国作り等を進めるとの視点で、産学官連携活動に対する社会の期待が従前に増して高まっています。大学は従来にも増して「社会貢献」機能の推進・達成に注力する必要がありますが、平成22年度から新たに、大学等産学官連携自立化促進プログラム(コーディネーター支援型)が設けられました。

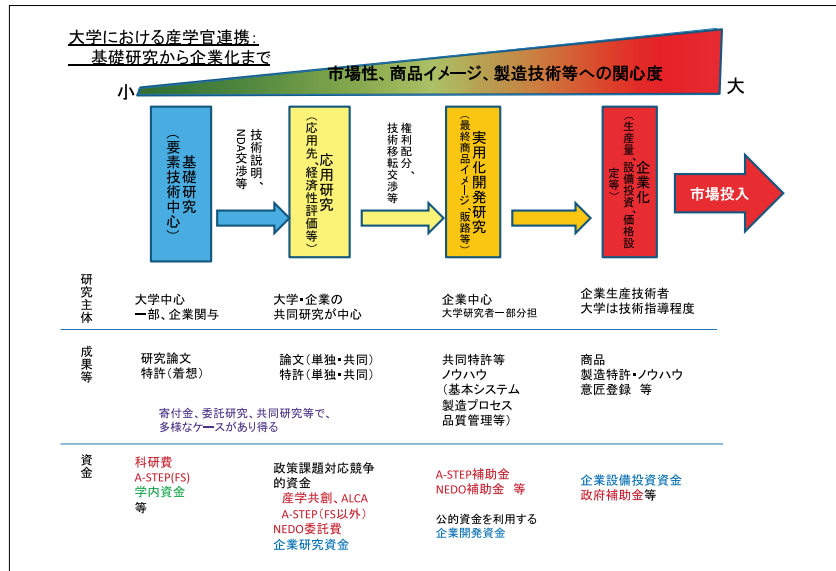


イノベーション創成センターは、以下の計画で、本学の産学官連携活動自立化に向けた体制構築、人材育成などに取り組んでいます。

<事業計画>

国家的課題としてグリーンイノベーション、ライフイノベーションに重点を置き、関連する基礎研究から技術移転、実用化研究までを、産学官連携の視点で総合的・俯瞰的に支援・推進可能な体制整備、人材確保・育成 を目指す。目標としては

- ①国・自治体の施策、産業界の動向、内外の学術研究等に関し、一元的な情報収集・管理・評価・分析・情報提供
- ②関連する適切な学術研究テーマの発掘・企画・基礎研究促進等の支援
- ③基礎研究テーマの発掘段階から、実用化・企業化に向けた広域的連携体制構築と外部資金獲得によるプロジェクト化を志向

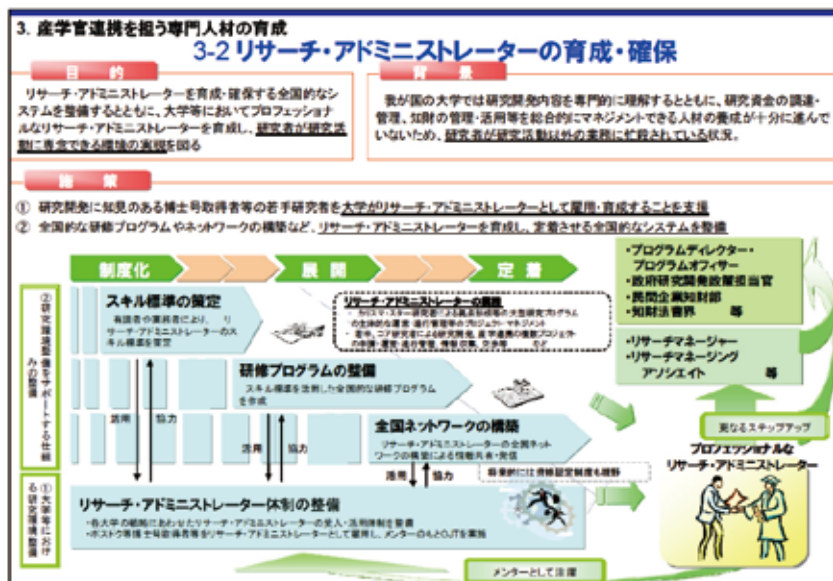


以上を進める過程で、知的財産の確保、情報発信、企業や他大学等との連携ネットワークの構築等を自立的に推進可能なレベルにまで向上させる。

平成24年度末には、研究支援・産学官連携シンクタンク機能・体制を学内に組織化、自立化させるとともに、これらの業務を担う人材育成を実現する。

リサーチアドミニストレーター制度について

平成23年度から、「産学官連携を担う専門人材の育成」と「大学の知的イノベーション創出環境の整備・強化」するために、新たにリサーチアドミニストレーター制度が設けられました。研究者とともに、研究活動の企画・立案、マネジメント、成果の活用促進等を行う機能・組織・人材を大学内に定着させ、大学の研究機能と社会貢献機能とを、産学官連携視点で知的イノベーション創出機能として統合・推進しようとするものと理解されます。本制度は、本学が「大学等産学官連携自立化促進プログラム(コーディネーター支援型)」において取り組んでいる事業の意義が認知され、大学本来の基礎的研究から実用化に至る、研究支援、知財管理、技術移転等をシームレスに遂行可能な体制整備・人材確保に向けた新たな施策として大いに歓迎できるものと考えられます。



イノベーション創成センター スタッフ



センター長 ^{よしくに} 吉國 ^{のぶお} 信雄
将来開拓部門長・教授



副センター長 ^{たきもと} 瀧本 ^{あきら} 昭
(理工研究域機械工学系教授)



^{わたなべ} 渡辺 ^{よしなり} 良成
連携研究推進部門長・教授



^{わけべ} 分部 ^{ひろし} 博
知的財産部門長・准教授



^{たかはし} 高橋 ^{こうしん} 光信
起業支援部門長
(理工研究域物質化学系教授)



^{おがわ} 小川 ^{けんいちろう} 健一郎
特任教授



^{ひらこ} 平子 ^{こうへい} 紘平
特任助教



^{ながえ} 長江 ^{ひでお} 英夫
金沢大学産学官連携コーディネーター



^{あべ} 阿部 ^{さとる} 覚
博士研究員



^{あざはら} 畔原 ^{ひろあき} 宏明
博士研究員

イノベーション創成センター 客員教授

任期：平成23年4月1日～平成24年3月31日

いじま やすひろ
飯島 泰裕青山学院大学 社会情報学部
大学院社会情報学研究科 教授しば くにお
斯波 久二雄

株式会社BM総研 吹田事務所長

おくの のぶお
奥野 信男せりょう こういち
瀬領 浩一こばやし ようこ
小林 洋子内閣府
政策統括官(共生社会政策担当)付参事官
高齢社会対策担当 仕事と生活の調和推進室
子ども若者・子育て施策総合推進室たき よしひこ
多喜 義彦システム・インテグレーション株式会社
代表取締役社長さかい しげき
坂井 茂樹株式会社商工中金経済研究所
取締役所長なかい じゅん
中井 純

株式会社アットワイヤレス 代表取締役社長

ひらの たけつぐ
平野 武嗣

有限会社金沢大学ティ・エル・オー 代表取締役社長

50音順・9名・敬称略

イノベーション創成センター 産学官地域アドバイザー



あわ まさはる
粟 正治



にしむら さとる
西村 聡
財団法人石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部長



おくの のぶお
奥野 信男



はやし きんや
林 欽也
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
プライバシーマーク審査員

かわしま ひろこ
川島 ひろ子
石川県保健環境センター
技監



ふなづ やすお
舟津 泰雄
金沢信用金庫
経営支援部長



しまだ ゆうご
嶋田 雄吾
金沢市産業局
ものづくり産業支援課
主任主事



ますやま かずと
増山 和人
株式会社北陸銀行支店部
石川地区事業部
調査役

たかお ひろひさ
高尾 浩久
野村証券株式会社金沢支店
次長兼企業金融課長



みずぐち ゆきお
水口 由紀夫
富木医療器株式会社
ラボラトリー営業部
専任部長



なかむら おさむ
仲倉 修
株式会社日本政策投資銀行
北陸支店
企画調査課長



よしだ たつや
吉田 達也
小松市経済環境部
商工労働課長

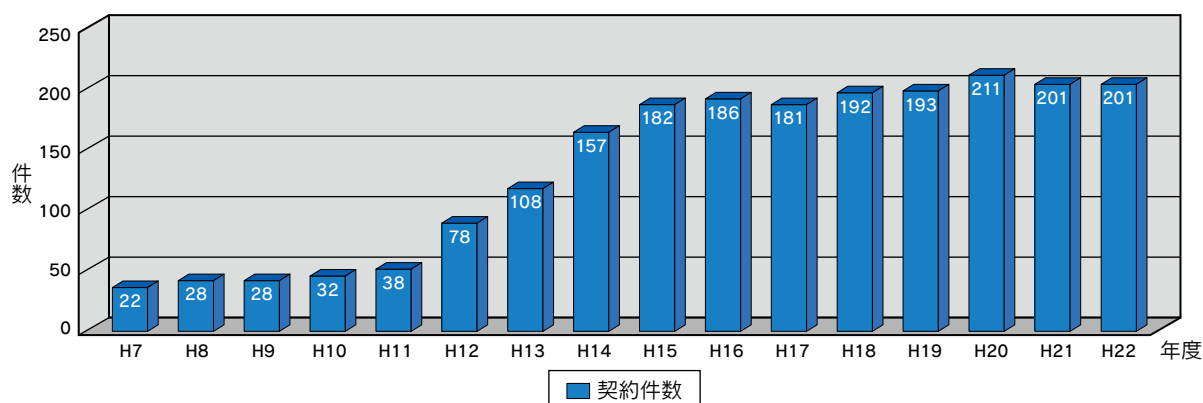


にしむら かずや
西村 和也
株式会社北國銀行
営業統括部営業サポート課
課長代理

平成22年度 共同研究一覽

本号では、平成22年度の産学官共同研究テーマの一部を紹介します。共同研究をはじめる前の予備的検討として、イノベーション創成センター協会の「技術アドバイスサービス」(50ページ参照)をご利用される企業も増えてきています。本欄掲載者以外にも共同研究に対応可能な教員は多数おります。センターから適任者を御紹介しますので遠慮なくお問い合わせください。

また、地域の各種展示会会場等でも大学ブースに「出張技術相談室・共同研究相談室」を開設してお待ちしております。



201件

(各部署・系の50音順)

研究題目	受入部局	職名	氏名
学力調査の分析・考察	人間社会研究域 学校教育系	准教授	加藤 隆弘
日本海域における水中文化遺産の詳細分布調査	人間社会研究域 歴史言語文化学系	教授	佐々木 達夫
車輪リム内部残留応力分布の測定に関する研究	人間社会研究域 人間科学系	教授	佐々木 敏彦
小型X線応力測定装置の開発	人間社会研究域 人間科学系	教授	佐々木 敏彦
L-ornithine hydrochlorideの経口摂取が骨格筋の損傷に伴う激運動後の遅発性筋痛の抑制あるいは回復促進に及ぼす効果	人間社会研究域 人間科学系	教授	出村 慎一
地方の若者のクルマ離れに関する研究	人間社会研究域 人間科学系	教授	松川 順子
非侵襲生体計測技術の安全・信頼性工学への応用研究	自然科学研究科	特任准教授	山越 健弘
モータースポーツ中の生体情報計測に関する研究	自然科学研究科	特任准教授	山越 健弘
流体粒子法の研究における波・表面張力・相転移モデルの検討	理工研究域 数物科学系	教授	小俣 正朗
シクロデキストリン誘導体の合成	理工研究域 物質化学系	准教授	生越 友樹
香粧品応用を目指したマルチ銅酸化酵素 (CueO, BOD など) の機能改変	理工研究域 物質化学系	教授	櫻井 武
酸素還元酵素の精密構造解析	理工研究域 物質化学系	教授	櫻井 武
高耐久性有機薄膜太陽電池の開発	理工研究域 物質化学系	教授	高橋 光信
産業廃棄物の再利用の可能性に関する検討	理工研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
カーボンポラスコンクリートの環境浄化機能に関する検証	理工研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成22年度 共同研究一覧

研究題目	受入部局	職名	氏名
土壌中有害重金属の溶出抑制	理工研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
重金属汚染土壌及び廃棄物に対する洗浄方法の開発	理工研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
重金属含有排水に対する凝集沈殿剤の開発	理工研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
燃料電池および新液体燃料の社会的妥当性の検証	理工研究域 機械工学系	准教授	阿部 義男
湿式摩擦材及び自動変速機油に関する基礎的研究	理工研究域 機械工学系	講師	岩井 智昭
ゴルフボールの斜め衝突実験と衝突特性に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	岩田 佳雄
CBN工具による高強度材料旋削時の工具刃先温度に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	上田 隆司
炭素繊維強化プラスチックのレーザー加工技術の確立	理工研究域 機械工学系	教授	上田 隆司
サファイア・Siのレーザー切断に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	上田 隆司
セラミックス複合材高速加工技術の研究	理工研究域 機械工学系	教授	上田 隆司
工具刃先温度が工具摩耗・コーティング剥離・加工変質層に及ぼす影響に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	上田 隆司
蝶結び装置及び、蝶結び方法の研究開発	理工研究域 機械工学系	教授	喜成 年泰
加工糸高度製造法の開発	理工研究域 機械工学系	教授	喜成 年泰
クランクシャフト専用研削盤の効果的クーラント潤滑法	理工研究域 機械工学系	教授	木綿 隆弘
E R F次世代風車研究開発	理工研究域 機械工学系	教授	木綿 隆弘
オリフィス下流の壁面せん断応力測定	理工研究域 機械工学系	教授	木綿 隆弘
水蒸気吸着材AQSOAを用いた蓄熱・熱輸送システムの開発	理工研究域 機械工学系	教授	児玉 昭雄
高回収率を可能とする新規CO ₂ -PSAプロセスの開発	理工研究域 機械工学系	教授	児玉 昭雄
積層ガラスの衝撃破壊に関する研究	理工研究域 機械工学系	助教	酒井 忍
スポーツ用投球機の研究	理工研究域 機械工学系	助教	酒井 忍
点検マウス変状記録システムにおける位置検出システムの研究開発	理工研究域 機械工学系	准教授	関 啓明
燃料の燃焼促進剤の開発及び性能向上	理工研究域 機械工学系	教授	瀧本 昭
不凍物質の作用機構解明	理工研究域 機械工学系	准教授	多田 幸生
小型有翼実験機および高信頼性飛行制御システムの開発	理工研究域 機械工学系	准教授	得竹 浩
難削材の高効率・高精度加工を実現するUBMSフリーカーボン含有コーティング膜の開発	理工研究域 機械工学系	教授	細川 晃
非侵襲血圧・動脈硬化度・動静脈酸素飽和度同時計測法の開発研究	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
自動健康モニタリングシステムの開発研究	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職名	氏名
在宅療養における生体モニタリングシステムの研究開発	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
シートタイプ多点感圧センサによる医療・福祉・健康分野への応用研究	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
ユビキタス・ヘルスケアシステムの研究開発	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
手首における連続血圧計測の実用化に関する研究 足背動脈における連続血圧計測の実用化に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
安心健康住宅のための生体計測要素技術に関する研究開発	理工研究域 機械工学系	教授	山越 憲一
飲料用アルミ容器の成形性と人間工学的設計に関する研究	理工研究域 機械工学系	教授	山崎 光悦
自動車用CFRPのハイサイクル成形の研究	理工研究域 機械工学系	教授	米山 猛
熱可塑性CFRPに即したプレス技術の確立	理工研究域 機械工学系	教授	米山 猛
画像の超解像処理技術の開発	理工研究域 電子情報学系	講師	今村 幸祐
プラズマ切断機消耗品長寿命化の研究	理工研究域 電子情報学系	教授	上杉 喜彦
新規不揮発性メモリ小規模アレイ TEG 開発	理工研究域 電子情報学系	准教授	北川 章夫
無線センサネットワークの研究開発	理工研究域 電子情報学系	准教授	北川 章夫
任意変調プラズマナノ粒子生成における原料同期供給の検討	理工研究域 電子情報学系	教授	田中 康規
分子ガス内ポリマーアブレーションによるプラズマクエンチング効果に対する実験・数値解析的検討	理工研究域 電子情報学系	教授	田中 康規
SF6ガスアーク遮断現象における固体-プラズマ相互作用を導入したアークモデルの研究	理工研究域 電子情報学系	教授	田中 康規
動画質向上技術向け高精度動き推定回路の研究	理工研究域 電子情報学系	教授	松田 吉雄
ナノスケールSRAM回路の研究	理工研究域 電子情報学系	教授	松田 吉雄
近傍における雷空電の検知と位置推定法	理工研究域 電子情報学系	教授	八木谷 聡
ラジオノイズ源探査アンテナの研究開発	理工研究域 電子情報学系	教授	八木谷 聡
ロックアップ滑り制御による燃費向上(2次)	理工研究域 電子情報学系	教授	山本 茂
画像情報による実構造物コンクリートの分析に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	教授	五十嵐 心一
iRICを用いた河川流れと河床変動解析	理工研究域 環境デザイン学系	講師	楳田 真也
A S R劣化コンクリートの補修工法に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	准教授	久保 善司
雪庇防止ネットの効果に関する工学的検証	理工研究域 環境デザイン学系	教授	関 平和
雪氷路面の凍結防止対策について	理工研究域 環境デザイン学系	教授	関 平和
地盤構成からみた越後平野における地震被害の特徴と対策に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	助教	高原 利幸
道路P I交通シミュレーションのための路上観測交通量からの域内OD交通量の推計法開発	理工研究域 環境デザイン学系	教授	高山 純一

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成22年度 共同研究一覧

研究題目	受入部局	職名	氏名
A S Rコンクリート構造物の合理的な維持管理手法の確立に関する共同研究	理工研究域 環境デザイン学系	教授	鳥居 和之
フライアッシュによるコンクリートの耐久性評価に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	教授	鳥居 和之
複合ラーメン構造の接続部の耐荷力に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	准教授	深田 宰史
ジオグリッドを補強材として用いたEPS(発泡スチロール)の落石衝撃力の緩衝性能評価に関する研究	理工研究域 環境デザイン学系	教授	前川 幸次
ガラスからの不純物溶出防止のための技術開発	理工研究域 自然システム学系	准教授	奥寺 浩樹
超純水中の微粒子計測に関する研究	理工研究域 自然システム学系	准教授	瀬戸 章文
平板状イオナイザの除電性能評価	理工研究域 自然システム学系	准教授	瀬戸 章文
帯電微粒子水を用いた凝縮成長技術の研究とその特性評価	理工研究域 自然システム学系	准教授	瀬戸 章文
静電気除電技術、帯電粒子計測技術の研究	理工研究域 自然システム学系	准教授	瀬戸 章文
改質水の性質と応用	理工研究域 自然システム学系	教授	松郷 誠一
天然物の臨床医学的研究	医学系研究科	特任教授	鈴木 信孝
発展途上国の小児HIV-1感染に対するLAMP法を用いた検出系の開発	医薬保健研究域 医学系	教授	市村 宏
消化管痛覚評価系に関する研究	医薬保健研究域 医学系	教授	尾崎 紀之
メタボリックチップの実用開発	医薬保健研究域 医学系	教授	金子 周一
末梢血液細胞遺伝子発現プロファイル解析による消化器癌患者の病態解析	医薬保健研究域 医学系	教授	金子 周一
非環式レチノイドを用いた肝疾患に対する新規治療法の開発	医薬保健研究域 医学系	教授	金子 周一
カスタムメイドマイクロアレイの臨床性能検証	医薬保健研究域 医学系	教授	金子 周一
不死化子宮内膜細胞を用いたプロゲステロン・ジエノゲストの薬理作用の検討	医薬保健研究域 医学系	講師	京 哲
TelomeScan(OBP-401)の婦人科癌診断への応用検討	医薬保健研究域 医学系	講師	京 哲
ノルエチステロンおよびエチニルエストラジオールのヒト不死化子宮内膜症上皮細胞に及ぼす分子機構の解明	医薬保健研究域 医学系	講師	京 哲
肝臓由来分泌タンパク質の受容体に関する研究	医薬保健研究域 医学系	准教授	篁 俊成
ヒト肝臓における網羅的遺伝子発現解析	医薬保健研究域 医学系	准教授	篁 俊成
Effects of renin inhibition by aliskiren on aldosterone breakthrough during angiotensin II receptor blocker therapy in hypertensive mice	医薬保健研究域 医学系	准教授	武田 仁勇
新しい創外固定の開発と臨床応用	医薬保健研究域 医学系	教授	土屋 弘行
ヒト腫瘍に対するin vitro効果確認	医薬保健研究域 医学系	教授	土屋 弘行
新しい創外固定の開発及び抗菌作用についての研究	医薬保健研究域 医学系	教授	土屋 弘行
心筋イメージングにおける自動定量処理アルゴリズムの開発	医薬保健研究域 医学系	准教授	中嶋 憲一

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職名	氏名
心筋SPECT解析ソフトウェアHeart Risk ViewとHeart Score Viewの検証研究	医薬保健研究域 医学系	准教授	中嶋 憲一
心筋イメージングにおける自動定量処理アルゴリズムの検証	医薬保健研究域 医学系	准教授	中嶋 憲一
血管塞栓療法に関する基礎的検討	医薬保健研究域 医学系	教授	濱田 潤一郎
機能的衣類の研究開発	医薬保健研究域 医学系	教授	藤原 勝夫
BAY43-9006の第Ⅲ相臨床試験における遠隔画像診断を利用した腫瘍評価システムの構築	医薬保健研究域 医学系	教授	松井 修
放射線医学的観点からの肝細胞がんの発がんに対する非環式レチノイドの影響に関する研究	医薬保健研究域 医学系	教授	松井 修
乳児期早期におけるB.breve投与と食物アレルギー発症との関連	医薬保健研究域 医学系	教授	谷内江 昭宏
糖尿病網膜症の基礎的研究	医薬保健研究域 医学系	教授	山本 博
RAGE阻害剤(糖尿病性腎症治療薬)の共同研究	医薬保健研究域 医学系	教授	山本 博
AGEの定性評価	医薬保健研究域 医学系	教授	山本 博
RAGEの皮膚組織、皮膚微小循環での発現と意義に関する研究	医薬保健研究域 医学系	教授	山本 博
超低侵襲心臓外科手術における心筋保護液注入針の開発にかかわる基礎的研究	医薬保健研究域 医学系	教授	渡邊 剛
無化学・無農薬農作物摂取におけるヒトへの影響調査研究	医薬保健研究域 保健学系	教授	真田 茂
留置カテーテル用の目視困難末梢静脈可視化機器の開発	医薬保健研究域 保健学系	教授	須釜 淳子
代謝症候群の危険因子を低減する食品成分に関する研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	太田 富久
不溶化剤の安全性及び不溶化効果の耐久性に関する研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	太田 富久
有用植物由来薬効物質の探索	医薬保健研究域 薬学系	教授	太田 富久
乾漆成分の生物活性における研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	太田 富久
肝臓等における薬物トランスポーターの評価に関する研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
皮膚科外用剤の薬物輸送に関する基礎的研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
連作障害における植物性化合物の調査研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	向 智里
反応性代謝物の評価に関する研究	医薬保健研究域 薬学系	教授	横井 毅
ヒトと動物で種差が認められる化合物の代謝酵素の検討	医薬保健研究域 薬学系	教授	横井 毅
多項目同時測定技術を用いた新しいHPV検査試薬の臨床研究	附属病院	教授	井上 正樹
進行膵がん、進行胆道がんにおけるAMTを用いたCompassionate care 臨床試験	附属病院	教授	金子 周一
人工関節の適正使用に関する研究	附属病院	助教	加畑 多文
下肢の関節運動を取り入れたイメージフリーナビゲーションシステムの精度と有効性の検討	附属病院	助教	加畑 多文

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

平成22年度 共同研究一覧

研究題目	受入部局	職名	氏名
Investigation of Japanese Bone Morphology with 3D Template of APS Natural Hip System (訳: APS Natural Hip Systemの3Dテンプレートによる日本人の骨形態の調査研究)	附属病院	准教授	加畑 多文
新規子宮頸部液状処理細胞診システムの有用性の検討	附属病院	助教	北村 星子
医療に係る統計情報プラットフォームの共同研究	附属病院	教授	長瀬 啓介
ジェネリック医療品の健康保険支払に及ぼす影響	附属病院	教授	長瀬 啓介
アルツハイマー病診断体系実用化プロジェクト (J-ADNI全国臨床研究)	附属病院	教授	山田 正仁
全自動免疫自動測定装置HISCL-2000iの凝固・線溶系分子マーカー (TAT, PIC) を用いた臨床的有用性に関する研究	附属病院	教授	和田 隆志
5-ALAを用いた転移性胃癌の術中診断及び治療法の開発	がん研究所	准教授	遠藤 良夫
HGF蛋白質及びNK4蛋白質を用いた難治性疾患治療法の開発	がん研究所	教授	松本 邦夫
肺癌におけるTKIの耐性機構の解明	がん研究所	教授	矢野 聖二
好熱性微生物が動物の腸管細胞等に与える遺伝学的影響評価	学際科学実験センター	准教授	西内 巧
インフォマティクス・プロテオミクスを用いた分化全能性研究	学際科学実験センター	准教授	西内 巧
好熱性微生物が動物の腸管細胞等に与える遺伝学的影響評価	学際科学実験センター	准教授	西内 巧
ICT教育の質的向上の研究1	総合メディア基盤センター	教授	佐藤 正英
フローセンサの実用化に関する研究	環日本海域環境研究センター	教授	木村 繁男
宇宙空間における骨代謝制御: キングヨの培養ウロコを骨のモデルとした解析	環日本海域環境研究センター	准教授	鈴木 信雄
魚類のウロコを用いた宇宙生物学的研究	環日本海域環境研究センター	准教授	鈴木 信雄
里山保全と農の環境連環の調査研究	環日本海域環境研究センター	教授	中村 浩二
水及び土壌中の有害重金属類の不溶化に関する研究	環境保全センター	准教授	道上 義正
Effect of L-Carnosine on hepatic glucose production (和訳: L-Carnosineの肝糖新生への影響)	フロンティアサイエンス機構	特任准教授	井上 啓
Investigation of L-Carnosine in the suppression of hepatic glucose production (和題: L-Carnosineの肝糖新生抑制に関する研究)	フロンティアサイエンス機構	特任准教授	井上 啓
黄砂の有害性及び防御に関する研究	フロンティアサイエンス機構	特任教授	岩坂 泰信
Astaxanthinによる非アルコール性脂肪肝(NAFLD)の発症・進展抑制効果の検討	フロンティアサイエンス機構	特任助教	太田 嗣人
ウシ体外受精胚の遺伝子レベルでの品質評価	フロンティアサイエンス機構	特任助教	堀家 慎一
ICT教育の質的向上の研究3	大学教育開発・支援センター	教授	西山 宣昭

その他 54件

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

JST A-STEP 平成23年度 第1回 フィージビリティ スタディ【FS】ステージ 探索タイプ 採択一覧

注) 教員及び担当CDの所属・職名は申請時時点のものです。

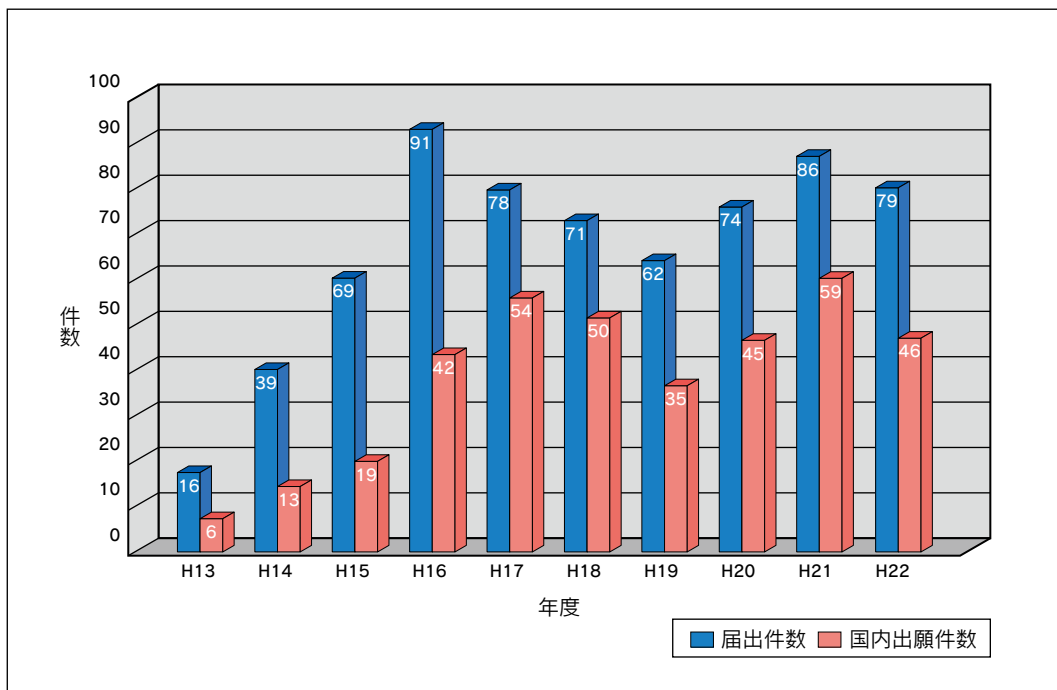
No.	分野	課題名	研究責任者			コーディネーター等		
			氏名	所属	役職	氏名	所属	役職
1	装置・デバイス	光ピックアップ読出し機構を用いたディスク型放射線ガラスエアセンサー	黒堀 利夫	人間社会研究域	教授	山田 光俊	(有)金沢大学 ティ・エル・オー	アソシエイト
2	装置・デバイス	軟X線用のオンサイト型背面反射回折環二次元イメージング機構の開発	佐々木敏彦	人間社会研究域	教授	奥野 信男	イノベーション 創成センター	産学官地域 アドバイザー
3	装置・デバイス	高気圧変調誘導熱プラズマによる純金属ナノ粒子の革新的高効率・大量選択生成法の開発	田中 康規	理工研究域	教授	小川健一郎	イノベーション 創成センター	特任教授
4	無機化学	汚染土壤中重金属の低環境負荷・高効率除去を実現するキレート洗浄技術の開発	長谷川 浩	理工研究域	教授	奥野 信男	イノベーション 創成センター	産学官地域 アドバイザー
5	有機化学	多糖のらせんキラリティーを利用した高分子不斉触媒の開発	井改 知幸	理工研究域	助教	畔原 宏明	イノベーション 創成センター	博士研究員
6	有機化学	悪臭・有害物質除去を目的とする新規両性イオン型繊維状吸着剤の製品開発	早川 和一	医薬保健研究域	教授			
7	医療技術	日本人男性不妊症診断ツール(Y染色体微小欠失)の開発	高 栄哲	医薬保健研究域	准教授	長江 英夫	イノベーション 創成センター	産学官連携 コーディネーター
8	医療技術	共焦点顕微鏡を用いた脳腫瘍判別システムの開発	米山 猛	理工研究域	教授	小川健一郎	イノベーション 創成センター	特任教授
9	創薬	イリドイド化合物ライブラリーからのSニトロシル化を標的とした新規緑内障治療薬の探索	郡山 恵樹	医薬保健研究域	助教	渡辺 良成	イノベーション 創成センター	教授
10	創薬	骨形成を促す新規骨疾患治療薬の研究開発	鈴木 信雄	環日本海域環境研究センター	准教授	長江 英夫	イノベーション 創成センター	産学官連携 コーディネーター
11	創薬	石川県伝統調味料「いしる」の生体に及ぼす効果	棟居 聖一	医薬保健研究域	助教	長江 英夫	イノベーション 創成センター	産学官連携 コーディネーター
12	創薬	がんの転移と悪性度に関わるRAGEを標的とした抗体療法の開発	山本 靖彦	医薬保健研究域	講師	渡辺 良成	イノベーション 創成センター	教授
13	創薬	腫瘍血管新生阻害治療の分子標的探索に有用な新規マウスモデルの開発	吉岡 和晃	医薬保健研究域	助教	渡辺 良成	イノベーション 創成センター	教授

※分野別・研究責任者名50音順

発明届出・特許出願状況

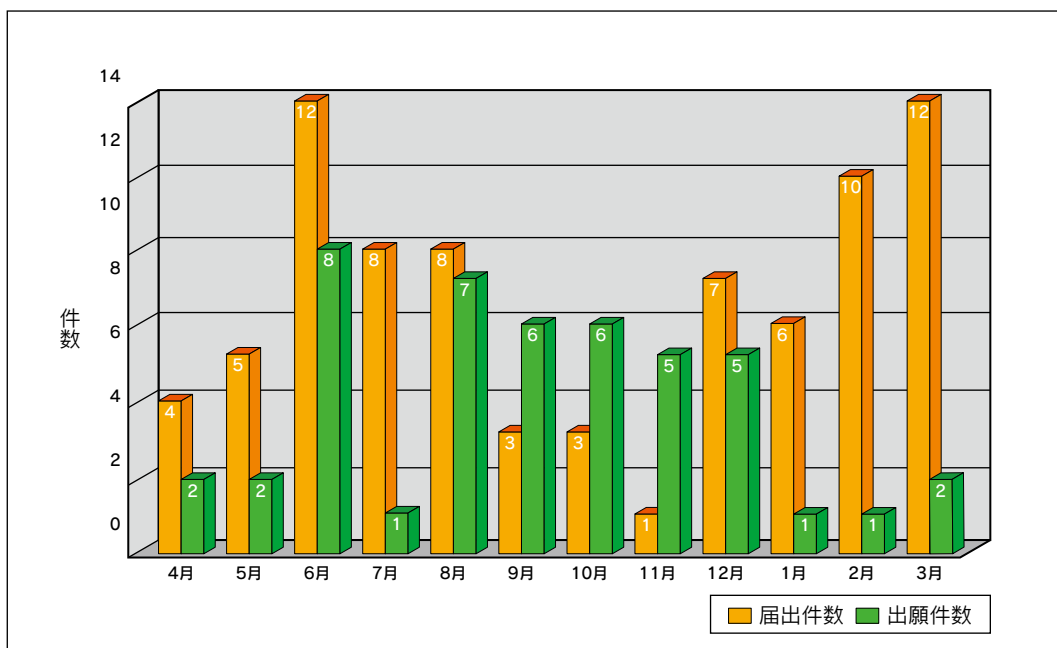
本学では、ここ数年発明届出数が60~70件/年、出願件数が40~50件/年で推移しております。今後、産学連携を推進するため、これら件数の増加を図る方向です。

■表1 平成13~22年度比較（年度別）



(平成13~15年度：国有特許)

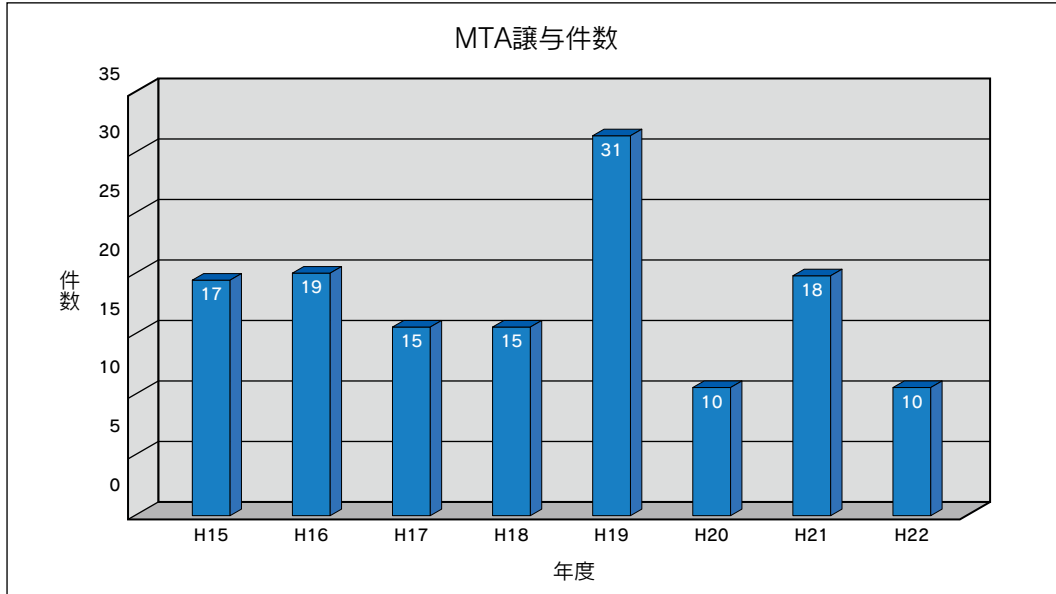
■表2 平成22年4月~平成23年3月（月別）



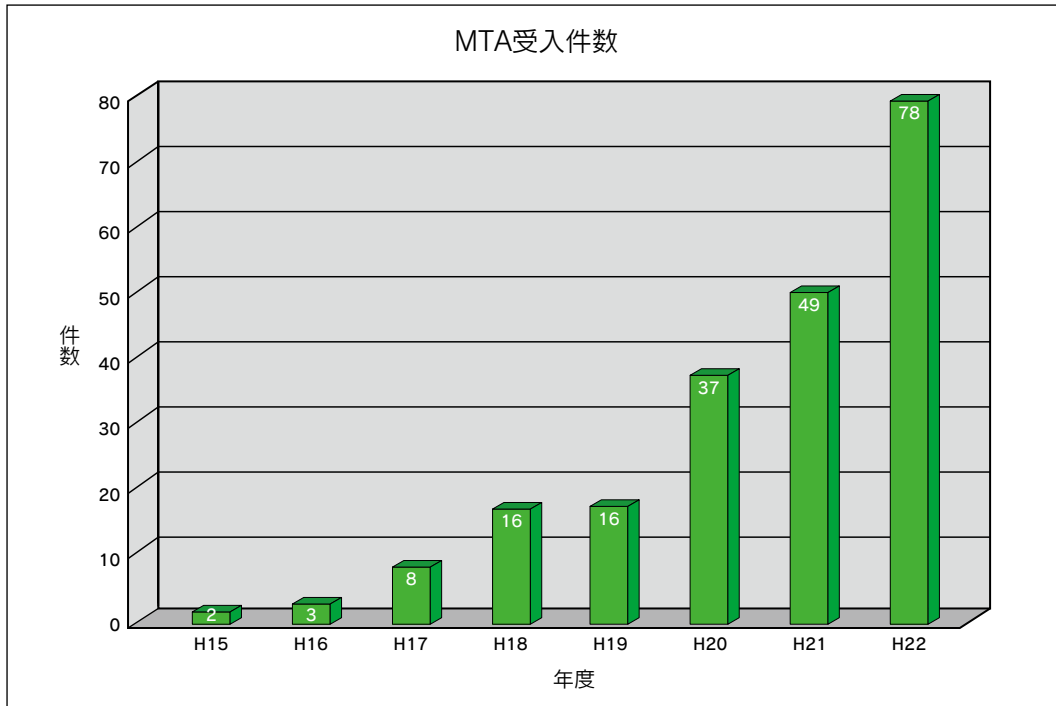
発明届出件数 合計79件 / 特許出願件数 合計46件

研究成果有体物の譲与・受入状況

■表1 平成15～22年度（MTA譲与 年度別）



■表2 平成15～22年度（MTA受入 年度別）



平成22年度 公開特許出願一覧

発明の名称	出願番号
アデノウイルスベクターによるSOD2酵素ノックダウンの系を用いた用量依存性の薬物誘導性肝障害ラットモデル	特願2008-243131
酸素還元用触媒及びその製造方法、酸素還元用電極及びその製造方法	特願2008-244954
鉗子	特願2008-246144
レビー小体型認知症の判定方法、判定装置並びにプログラム	特願2008-252690
癌患者の外科的手術後の治療選択方法及び予後診断	特願2008-264695
走査型プローブ顕微鏡	特願2008-275981
金属膜を有する成形用フィルム及びその製造方法	特願2008-271770
腰椎前弯形成運動器具	特願2008-273644
リマプロストを含有してなる癌化学療法に起因する末梢神経障害予防、治療および/または症状軽減剤	特願2009-229186
色素含有ハニカム構造フィルム	特願2008-280902
Cdc25Bと β -TrCPとの特異的結合を利用した検出系	特願2008-306804
微粒子の製造方法およびその製造装置	特願2009-028869
ヘテロ原子置換された光学活性なプロパンニトリル類の合成法	特願2008-334506
密度変化分解能評価用ファントム及びこれを用いた密度変化分解能評価方法	特願2009-000684
損傷DNAの定量方法及び被験物質の評価方法	特願2009-004976
覚醒維持装置	特願2009-019638
電極触媒、酵素電極、燃料電池及びバイオセンサ	特願2009-028988
肺癌、肺癌合併LEMS及びLEMSの検査方法	特願2010-012639
有害金属汚染物の浄化方法	特願2009-049287
強誘電体、圧電体及びこれらの製造方法	特願2009-061896
誘導熱プラズマ発生方法及び装置	特願2009-068274
血圧情報測定装置	特願2009-067826
哺乳動物の薬物誘導性肝障害の抑制薬	特願2009-075280

発明の名称	出願番号
圧力測定装置	特願2009-086473
生体計測装置	特願2009-085600
RAGE遺伝子の2種類のスプライシングバリエントを区別して増幅可能なプライマーセット及びプローブ	特願2009-087418
正面フライス加工方法及び正面フライス加工用被削材	特願2009-105113
希土類金属の抽出剤及び抽出分離法	特願2009-122263
シリコン系ナノ粒子の製造方法	特願2009-123415
e s R A G E 過剰発現マウス	特願2009-120572
白血病治療剤及び該治療剤の新規なスクリーニング方法	特願2009-134714
針状単結晶及びその製造方法	特願2009-138545
筋電位計測装置	特願2009-144256
色素幹細胞の未分化性維持促進剤	特願2009-244447
置換フェナントレン化合物を有効成分とするがんを予防および/または治療するための医薬組成物	特願2009-162000
アバランシェフォトダイオード	特願2009-164401
X線応力測定方法	特願2009-173619
ポリフェノールを配合してなる経口投与用又は外用組成物、並びにその用途	特願2009-170353
デジタル音響信号処理装置	特願2009-186829
メモリ回路	特願2009-202550
断熱充電回路	特願2009-202549
断熱充電メモリ回路	特願2009-202442

※平成22年4月1日～平成23年3月31日公開分の特許出願

平成23年度ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 使用プロジェクト一覧

(氏名50音順)

No.	研究課題	プロジェクトリーダー	
		部局・職	氏名
1	Nd:YAGレーザーによる歯科治療の高度化・高機能化に関する研究	理工研究域・教授	上田 隆司
2	食品類の製造法及び安全性評価法に関する研究	医薬保健研究域・教授	太田 富久
3	有用植物由来薬効物質に関する研究開発	医薬保健研究域・教授	太田 富久
4	Moodleのデータベースおよび他システムとのデータ連携に関する研究	総合メディア基盤センター・教授	佐藤 正英
5	非侵襲刺激応答型ナノキャリアを用いたがん治療用ドラッグデリバリーシステムの構築	環日本海域環境研究センター・教授	清水 宣明
6	生活自立高齢者のための包括的な転倒予防システムの構築	人間社会研究域・教授	出村 慎一
7	化学物質による大気汚染・人体健康影響を定量的に評価するためのツール開発に関わる基礎的研究	医薬保健研究域・教授	早川 和一
8	機械システムにおける信頼性モニタリングシステムの研究	自然科学研究科・特任教授	広瀬 幸雄
9	汎用レーザーを用いた微細周期構造の創成と気体軸受への応用	理工研究域・教授	細川 晃
10	抗火石を用いた改質水の研究	理工研究域・教授	松郷 誠一
11	水及び土壌中の有害重金属類の不溶化に関する研究	環境保全センター・准教授	道上 義正
12	抗がん作用を示す新規低分子化合物の作用機構の解析	がん進展制御研究所・教授	向田 直史
13	人体深部の加温治療を目指したがん治療用誘導加温装置の開発	環日本海域環境研究センター・教授	山田 外史
14	ハマダラ蚊由来の新規タンパク質AAPPの機能評価	医薬保健研究域・教授	吉田 栄人
15	吸血昆虫由来の天然物ペプチドを基盤とした抗血小板薬の開発	医薬保健研究域・教授	吉田 栄人
16	ニンニクを起源とする機能性食品開発	医薬保健研究域・教授	米田 幸雄



金沢大学イノベーション創成センター協力会 産学コーディネーターの紹介

(学外)産学コーディネーター

(22名・50音順・敬称略)

朝本 衣香	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	コーディネートスタッフ
上野 久儀	金沢市ものづくり会館	館長
奥野 孝	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	技術参与
北嶋 正廣	(財)石川県産業創出支援機構 新規事業支援部経営支援センター	アドバイザー
国岡 由紀	一般(財)北陸産業活性化センター	科学技術コーディネーター
小島 敏男	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター
後藤 裕	文部科学省科学研究振興局	主任学術調査官
土肥 淳一	(社)石川県鉄工機電協会	専務理事
中川 脩一	一般(財)北陸産業活性化センター	事業総括補佐
中野 幸一	石川県工業試験場	次長
中村 外男	(株)石川県IT総合人材育成センター	専務取締役
南戸 仁美	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	コーディネートスタッフ
南部 修太郎	(株)アセット・ウィッツ	代表取締役
西川 清	金沢市異業種研修会館	館長
本庄 直樹	(社)石川県繊維協会	専務理事
三谷 忠興	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	館長
嶺 蔭 士朗	(財)石川県産業創出支援機構	コーディネーター
宮下 克己	(社)石川県建設業協会	専務理事
山本 孝	石川県工業試験場	企画指導部長
横川 隆之	(財)石川県産業創出支援機構	専務理事
吉田 繁	石川県工業試験場	場長
渡邊 博佐	(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ石川	科学技術コーディネーター

(学内)産学コーディネーター

(23名・50音順・敬称略)

青木 健一	総合メディア基盤センター		教授・センター長
上田 隆司	理工研究域	機械工学系	教授
太田 富久	医薬保健研究域	薬学系	教授
大谷 吉生	理工研究域	自然システム学系	教授
大友 信秀	人間社会研究域	法学系	教授
奥寺 浩樹	理工研究域	自然システム学系	准教授
國嶋 崇隆	医薬保健研究域	(学際科学実験センター)	教授
佐々木 敏彦	人間社会研究域	人間科学系	教授
真田 茂	医薬保健研究域	保健学系	教授
清水 宣明	環日本海域環境研究センター		教授
須釜 淳子	医薬保健研究域	保健学系	教授
中村 浩二	環日本海域環境研究センター		教授・センター長
中村 裕之	医薬保健研究域	医学系	教授・環境保全センター長
並木 幹夫	医薬保健研究域	(附属病院)	教授
廣瀬 幸雄	大学院自然科学研究科		特任教授
松本 邦夫	がん進展制御研究所		教授
松本 宏一	理工研究域	数物科学系	教授
山越 憲一	理工研究域	機械工学系	教授
山田 外史	環日本海域環境研究センター		教授
山田 実	理工研究域	電子情報学系	教授
横井 毅	医薬保健研究域	薬学系	教授
吉川 弘明	保健管理センター		教授
和田 隆志	医薬保健研究域	医学系	教授

広 報

川上・川下 オープンイノベーション・フォーラム2010へ参加

2010.9.22

平成22年9月22日(水)、ホテルニューオータニ高岡にて開催された「川上・川下オープンイノベーション・フォーラム2010」へ出展しました。

本フォーラムは、(独)中小企業基盤整備機構「平成22年度川上川下ネットワーク構築事業」の一環で、北陸地域の企業が次世代成長産業分野等の多様なニーズ・シーズに触れ、産学連携等による研究開発・技術移転等を目指す機会を促進する目的で開催されました。

シーズ発表とともに、企業との個別面談も設定され、新販路の開拓や産学連携等による研究開発の促進が期待されます。また、シーズの概要は、フォーラム参加企業に配布されるパンフレットとして作成され、企業との産学連携マッチングのツールとして活用されました。

本学からの出展内容は次のとおりです。

●研究シーズ発表

・高性能バドミントンマシンの開発
(理工研究域機械工学系 助教 酒井 忍)

●パンフレット掲載

- ・創薬研究(薬理・動態分野)の現場で必要とされるものづくり
(医薬保健研究域薬学系 教授 加藤 将夫)
- ・磁歪材料を用いたマイクロ振動発電素子
(理工研究域電子情報学系 准教授 上野 敏幸)
- ・TiO₂/超音波触媒法による酸化ラジカル発生法とその応用
(環日本海域環境研究センター 仁宮一章・清水宣明)



競争的研究資金の仕組みとNEDO申請の ポイント説明会～産業技術研究助成事業 (若手研究グラント)を例にして～を開催

2010.9.27

平成22年9月27日(月)、金沢大学インキュベーション施設1F セミナー室にて、競争的研究資金の仕組みとNEDO申請のポイント説明会～産業技術研究助成事業(若手研究グラント)を例にして～を開催しました。

株式会社島津製作所 東京支社 産学官プロジェクト推進室(兼 NEDO新技術調査委員)の橋本 志朗 氏をお招きし、公募事業申請のポイントを中心とした産学官連携プロジェクト資金採択の豊富な経験に基づいた貴重なお話を伺いました。



イノベーション・ジャパン2010 -大学見本市-へ出展

平成22年9月29日(水)～10月1日(金)、東京国際フォーラム(東京・有楽町)にて開催された、国内大学の最先端技術シーズと産業界のマッチングイベント「イノベーション・ジャパン2010-大学見本市」に、出展しました。展示会における総入場者数は3日間で17,853人と発表されております。

展示会場の8分野のうち、金沢大学は「ものづくり」の分野へ、次のとおり出展しました。

- ・磁歪材料の屈曲変形を用いた小型振動発電素子
理工研究域電子情報学系 准教授 上野 敏幸
- ・バッテリーなしで動作する無線湿気センサ
理工研究域電子情報学系 准教授 北川 章夫
- ・電磁界コンパス～電磁界ベクトルがその場で見えるセンサ～
理工研究域電子情報学系 教授 八木谷 聡

2010.9.29-
10.1

3ブースとも試作品 デモの実演や、来訪者が立ち寄りたくなるブース設営により、本学ブースには3日間で約1800人もの来訪者があり、教員およびスタッフ一同、休む間もなく説明に追われ非常に好評でした。



展示会場「ものづくり」分野 金沢大学ブース

しんきんビジネスフェア 北陸ビジネス街道2010へ出展

平成22年10月15日(金)、石川県産業展示館にて第5回目となる、しんきんビジネスフェア『北陸ビジネス街道2010』が開催され、今年も金沢大学より出展いたしました。

このイベントは、企業との商談・大学・研究機関との連携等、交流を深め、新たなビジネス創造・販路拡大の機会として開催されております。本学からの出展は次のとおりです。

- 「逆型有機薄膜太陽電池の高効率化および高耐久化の研究」
理工研究域物質化学系 高橋 光信 教授 研究室

2010.10.15



北陸技術交流テクノフェア2010へ出展

2010.10.21-
10.22

平成22年10月21日(木)～22日(金)、福井県産業会館にて開催された「北陸技術交流テクノフェア2010」へ出展しました。産学官が一堂に会して北陸内外の優秀な技術力、製品・開発力を紹介する本イベントは、北陸最大規模の技術展示会です。

会場全体で3つの技術的・戦略的分野のテーマゾーンを設定。金沢大学では、ゾーン3(未来を切り拓く、進化するものづくり技術)～素材・機械・テクノロジーが拓く新たなものづくりへ出展しました。出展内容は次の通りです。

- ・ローラ式バトミントンマシン
理工研究域機械工学系 助教 酒井 忍
- ・宇宙実験による新規骨疾患治療薬の研究開発
環日本海域環境研究センター 准教授 鈴木 信雄
- ・イノベーション創成センターの紹介

会場では、本試作機を用いたシャトル発射実験のデモンストレーションと高速度ビデオカメラによるシャトル発射時の映像を流すなど、視覚的に分かりやすい工夫を凝らしました。また、人間の骨に近い金魚のウロコを使用した宇宙実験の報告・展示も、多くの来場者へ関心を持っていただけました。



鈴木先生とJAXAによる展示

若手研究者シーズ発表会を開催

2010.11.4

平成22年11月4日(木)、角間キャンパス自然科学本館大講義棟1階 レクチャーホールにて、地域企業と本学の研究マッチングによる実用化推進を目的とした「若手研究者シーズ発表会」を開催しました。

本発表会は学内若手研究者を対象に学内から公募。発表者へは研究助成金の支援を行いました。理学、工学、薬学、保健医療と幅広い領域を扱い、かつ企業関係者をターゲットに置いた分かりやすい説明で、好評を得ました。第一回目の発表者は次のとおりです。

- ・剛性可変構造を持つロボットハンド
理工研究域機械工学系 講師 渡邊 哲陽
- ・マイクロマシン技術を用いた光集積回路
理工研究域電子情報学系 准教授 丸山 武男
- ・微細翼型チューブ熱交換器の
高性能化による省エネルギー技術の追究
理工研究域機械工学系 助教 大西 元
- ・炭素リッチなナノスケール環状分子を基にした
カーボンナノファイバーの創製
理工研究域物質化学系 准教授 生越 友樹
- ・宇宙実験による新規骨疾患治療薬の研究開発
環日本海域環境研究センター 准教授 鈴木 信雄

- ・無水環境下で生命を維持する
藻類由来の新規天然型機能性分子
理工研究域自然システム学系 准教授 坂本 敏夫
- ・バイオマス資源「多糖」を有効利用した
機能性マテリアルの開発
理工研究域物質化学系 助教 井改 知幸
- ・ピルビン酸を含有する骨関節機能強化食品の開発研究
医薬保健研究域薬学系 准教授 檜井 栄一

主催:イノベーション創成センター連携研究推進部門、
起業支援部門(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)
後援:金沢大学イノベーション創成センター協力会

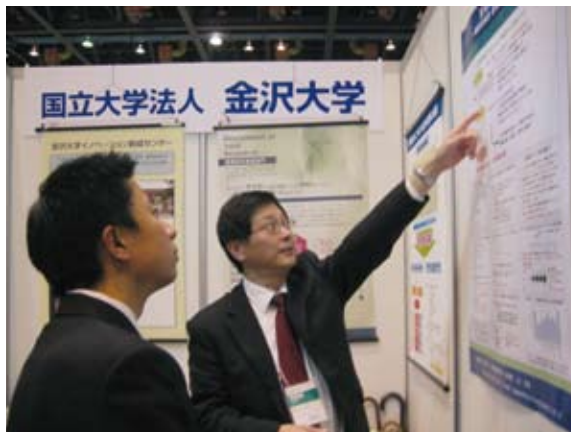


第6回FITネット商談会へ出展

2010.11.10

平成22年11月10日(水)、富山産業展示館テクノホールにて開催された、第6回FITネット商談会へ出展しました。本イベントは、北陸三県の地方銀行が主催する北陸最大級のスケールで開催している商談重視の商談会です。「世界に誇る北陸の技」をテーマに、様々な業種における「技」との出会いの場がセッティングされました。本学からの出展は次のとおりです。

- ・ニンニク成分ピルビン酸の骨強化作用
医学保健研究域 教授 米田 幸雄
- ・生体防御能を活性化する食品・化粧品成分
医薬保健研究域 准教授 小川 和宏



横浜リエゾンポート2010 (横浜全国産学広域連携推進会議)へ出展

2010.11.18

平成22年11月18日(木)、慶應義塾大学(日吉キャンパス)協生館にて開催された横浜リエゾンポート2010(横浜全国産学広域連携推進会議)へ出展しました。

本イベントは、横浜市内大学・全国の大学の優れたシーズを活用した、横浜企業の事業活動支援と、大学所在地の企業と横浜企業間の連携推進を目的として開催しております。

「横浜発 グリーン・イノベーション」をテーマに、環境・エネルギー技術を活かした低炭素型・循環型・自然共生型等環境負荷の少ない社会形成に貢献する技術に関し、本学からの研究技術を広く公開しました。全国の大学等が出展するイベントに参加したことにより、首都圏でのPR効果が期待されます。本学からの出展は次のとおりです。

- ポスターセッション
「高い耐久性を有する大面積有機薄膜太陽電池」
理工研究域物質化学系 高橋 光信 教授

主催：(財)横浜企業経営支援財団・横浜市
参加大学：神奈川大学、関東学院大学、慶應義塾大学、東京工業大学、横浜国立大学、横浜市立大学、東海大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、山口大学、高知大学、広島大学、岩手大学、金沢大学、帯広畜産大学

石川県技術提案型展示商談会へ出展

2010.12.1

平成22年12月1日(水)、三菱電機(株)先端技術総合研究所にて、同研究所、生産システム本部生産技術センター、関連企業関係者等を対象に、石川県内企業が有する新技術・新工法を紹介・提案する展示商談会を(財)石川県産業創出支援機構主催で開催しました。

この商談会は、新規取引の拡大を図ることを目的に開催されており、本学からは以下の出展を行い、約100名の来場者へ技術紹介や金沢大学の産学連携活動の紹介に努めました。

- 出展内容
「電磁界空間分布可視化装置～見えない電磁界を見る～」
理工研究域電子情報学系 教授 八木谷 聡
- 「磁歪材料を用いたマイクロ振動発電素子」
理工研究域電子情報学系 准教授 上野 敏幸

アントレプレナーコンテストを開催

2010.12.9

平成22年12月9日(木)、自然科学系図書館棟G1階G15会議室にて、アントレプレナーコンテストを開催しました。発表は13分間で行われ、それぞれのテーマのコンセプト、世の中への貢献、商品などの効能、販売計画、資金計画など短い時間の中で、分かりやすく印象的にプレゼンテーションが行われました。最優秀賞1組の他に、発表レベルが高かったため、当初予定していなかった優秀賞3組を追加しました。このコンテストで経験したことが基礎となり、将来起業化を志し、未来のエクセレントカンパニーを創る人材が輩出されることを期待します。

主催：イノベーション創成センター起業支援部門
(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)

審査員：(株)アイ・オー・データ機器 細野 昭雄
コマツ産機：(株) 西田 憲二
イノベーション創成センター 渡辺 良成
イノベーション創成センター 分部 博

コーディネーター：イノベーション創成センター 高橋 光信
イノベーション創成センター 粟 正治
イノベーション創成センター 林 欽也



受賞者へ表彰

発表内容

- ①一般家庭向けセキュリティキットの製造・販売【優秀賞受賞】
理工学域電子情報学類3年 川上 隼斗
- ②ピンポイントスピーカ【優秀賞受賞】
工学部人間・機械工学科4年 山下 剛
- ③名所お知らせくん
工学部物質化学工学科4年 森村 亘(江本夏弥、小森香津枝、池田泰生)
- ④金沢大学を拠点とするカーシェアリングビジネス
人間社会学域法学類3年 青山 晃大
- ⑤「良い演奏をしたい!!!」初級バンドの活動を助けする商品【最優秀賞受賞】
理工学部4年 長橋 拓也
- ⑥外部音報知イヤホンによるライフサポートビジネス【優秀賞受賞】
自然科学研究科人間・機械科学専攻1年 大久保 純一(河上亮大)
- ⑦猛暑・豪雪対策、二刀流散水エコマット
工学部土木建設工学科4年 川瀬 貴文

※発表されたプロジェクトが今後起業化に繋がるよう、最優秀賞から入賞までの各プロジェクトへ、研究助成費を副賞として贈呈



第1回 北陸地区知的財産勉強会を開催

2010.12.16

平成22年12月16日(木)、金沢大学イノベーション創成センターセミナー室において、北陸地区大学間の繋がりを深め、ノウハウや情報を共有し、知財管理の強化を図ることを目的とした「第1回 北陸地区知的財産勉強会」が開催されました。

当日はあいにくの天候でしたが、多くの知的財産実務者の方々にご参加いただきました。

先に、金沢大学イノベーション創成センター知的財産部門長 分部 博 より、大学における知財の考え方等の説明が行われ、その後、各大学において日常業務で苦労している点などを中心に今後の業務へ反映可能な、フリーディスカッションが行われました。非常に率直な意見交換がなさ

れました。

本勉強会を継続的に開催することにより、知財管理の強化ができればと考えております。



平成22年度ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 研究成果報告会を開催

2010.12.21

平成22年12月21日(火)に、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー研究成果報告会を開催しました。

この報告会は、VBLを利用しているプロジェクト及びVBLに所属している博士研究員の平成22年度における研究成果を発表する場となっております。

●プロジェクト ポスター発表

(会場:自然科学本館1階アカデミックプロムナード)

※ポスター毎に担当者が質疑に应答

- ・道上 義正「水及び土壌中の有害重金属類の不溶化に関する研究」
- ・山田 丸「化学物質による大気汚染・人体健康影響を定量的に評価するためのツール開発に関わる基礎的研究」
- ・山田 外史「誘導加温形がん治療法における
磁場発生コイルと高効率磁性発熱体の検討」
- ・仁宮 一章「超音波刺激応答型リポソームを用いた
ドラッグデリバリーシステムの構築」
- ・太田 富久「タヒボabebuia abellanedae 成分の
ヒト角化細胞増殖活性について」
- ・檜井 栄一「ニンニク成分ピルビン酸の骨強化作用」
- ・山内 隆志「Nd:YAG レーザに起因したTiO₂ 溶液内部に
生じる誘起衝撃応用力判定」
- ・太田 富久「イチゴ成分の正常ヒト表皮角化細胞における
サイトカイン産生に関する研究」
- ・内田 早苗「生体反応の可視化による
化学発がん物質検出系の開発研究」
- ・向田 直史「抗がん作用を示す新規化合物の同定」
- ・辛 紹熙「生活自立高齢者のための包括的な
転倒防止システムの構築」
- ・松本 健「mRNAポリA鎖に着目した
遺伝子発現解析システムの開発」

●博士研究員発表(口頭発表) 5名

(会場:自然科学本館1階102講義室)

- 松本 健「mRNAポリA鎖に着目した
遺伝子発現解析システムの開発」
- 山田 丸「新規機能性樹脂を用いた大気汚染物質の
除去に関する性能評価とマスクへの応用」
- 辛 紹熙「高齢者の転等転倒リスクを予測するための
O-SFSテストおよび障害物跨ぎ越し動作テスト」
- 索 茂栄「The Research on the Bioactive Ingredients
from Cashew Nuts(カシューナッツに由来する
生物活性成分の研究)」
- 内田 早苗「生体反応の可視化による
化学発がん物質検出系の開発研究」



ポスター発表



博士研究員発表

金沢大学イノベーションフォーラム2011を開催

2011.2.24

平成23年2月24(木)、金沢市内ホテルにおいて、金沢大学イノベーションフォーラム2011を開催しました。

本フォーラムは、グリーンイノベーションという国家戦略の中で、協力会会員企業を含めた地域企業が乗り越えていくべき課題を浮き彫りにし、従来のカルチャーから脱却するための道筋を追及するため、「北陸に次世代自動車基地を構築するために」を具体的なテーマとして開催されました。

次世代自動車について関係企業からの基調講演は、リサイクルや街づくりに絡めた具体的な事例がもとで、来場者へ大変好評でした。また、パネルディスカッションでは、本フォーラムのテーマについて、人材育成、研究・開発、投資など北陸地域が乗り越えていかねばならない課題を挙げ、産学官が一体となって現状を打破すべきといった活発な意見交換がなされました。当日は182人の参加者があり、用意していた席が全て埋まるほど盛況でした。

基調講演

- ・光岡 進(株式会社光岡自動車 取締役会長)
- ・近藤 典彦(会宝産業株式会社 代表取締役社長)
- ・柴田 計(ジェイ・バス株式会社 代表取締役社長)



事例紹介

- ・次世代自動車に関する最近の動きと金沢大学の事例
小川 健一郎(金沢大学イノベーション創成センター 特任教授)
榎本 啓士(金沢大学理工研究域 機械工学系 准教授)

パネルディスカッション

テーマ:『北陸に次世代自動車基地を構築するために』
モデレーター

細野 昭雄(株式会社アイ・オーデータ機器 代表取締役社長
イノベーション創成センター協力会会長)

パネリスト

- 光岡 進(株式会社光岡自動車 取締役会長)
- 近藤 典彦(会宝産業株式会社 代表取締役社長)
- 柴田 計(ジェイ・バス株式会社 代表取締役社長)
- 榎本 啓士(金沢大学理工研究域 機械工学系 准教授)
- 小川 健一郎(金沢大学イノベーション創成センター 特任教授)



JST A-STEP 公募説明会を開催

2011.2.28・

3.3

平成23年2月28日(月) 角間キャンパス、3月3日(木) 鶴間キャンパスにて、JST本部 産学連携展開部事業推進(募集・探索)担当の坂本様をお招きし、平成23年度のA-STEP公募説明会を開催しました。当日は、学内はもとより企業関係者からの参加も多数みられました。

MEX金沢2011 (第49回機械工業見本市金沢)へ出展

2011.5.19-
5.21

平成23年5月19日(木)～21日(土)の3日間、石川県産業展示館3、4号館において「MEX金沢2011(第49回機械工業見本市金沢)」が開催され、本学より今年度は2ブース出展いたしました。

今年で49回目を迎えるこのイベントには、県内外の企業や大学など110社・団体が出展し、約52,000人の来場者がありました。本学からの出展は次のとおりです。

●理工研究域 大気環境工学研究室・微粒子プロセス研究室
「慣性フィルタ技術とパーソナルナノフィルタ」

●イノベーション創成センター

イノベーション創成センター組織説明と産学連携制度のパネル展示
出張技術相談所



今年度は、約2年ぶりに3号館、4号館の2館での開催となりました。展示したパネルや装置に、興味深く覗き込む姿も多く見られました。

平成23年度金沢大学イノベーション創成センター 協力会総会を開催

2011.6.20

平成23年6月20日(月)、金沢市内ホテルにおいて、平成23年度金沢大学イノベーション創成センター協力会総会を開催いたしました。

総会では議事に先立ち、協力会会長 細野 昭雄氏((株)アイ・オー・データ機器 代表取締役社長)及び 中村 信一金沢大学長より挨拶がありました。引き続き議事に入り、平成22年度事業報告及び収支決算報告、平成23年度事業計画案及び収支予算案についての承認が行われ、役員を選出と顧問・参与・産学コーディネーターの委嘱についての報告がなされました。

本年度の特別講演は、日産自動車(株)ゼロエミッション事業本部 ZEV企画グループ部長 牧野 英治氏をお招きし、「日産EV開発と将来の展望」と題し講演が行われ、多くの来場者が訪れました。

総会・特別講演終了後の懇談会では、本センターの活動に関するポスター展示や、4月にリニューアルした協力会HPのデモンストレーションなども行われました。



Energy Harvesting & Storage Europe 2011へ出展

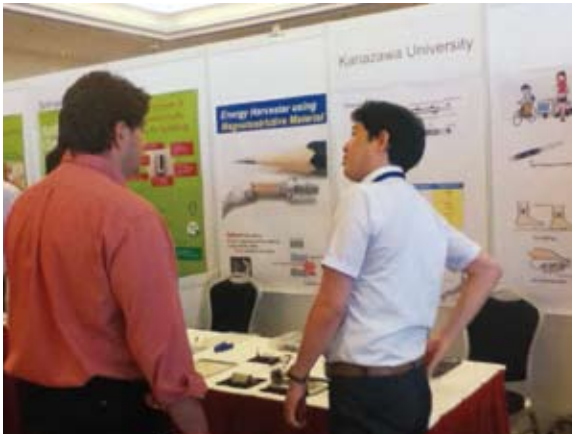
2011.6.21-
6.22

平成23年6月21～22の2日間に渡り、ドイツ ミュンヘンにて開催された「Energy Harvesting & Storage Europe 2011」に出展しました。

本イベントは、建物や産業施設、家電機器、自動車用電子機器、スマートグリッドなど、様々な分野で利用されつつある小型環境発電機器についての専門的なイベントです。2つの会場と展示会の来場者330名の多くは、この分野の専門家です。

40の出展者中、日本から唯一参加した金沢大学は、理工研究域電子情報学系 上野敏幸 准教授の「磁歪材料を用いた小型振動発電装置」のブースを設け、2種類の試作器によるデモンストレーションを、休みなく訪れる来場者に行いました。

全く新しい材料およびメカニズムにより、高い発電量を生み出す発電装置は、多くの来場者を驚かせ、高い評価を得ておりました。さらに22日には上野准教授が本技術に関する講演を行い、関心をもって集まった多くの聴衆が熱心に説明に聞き入っていました。



環境改善に貢献する小型環境発電機器の専門家達



上野准教授による発表



熱心に聞き入る多くの来場者

金沢大学イノベーション創成センターと 商工組合中央金庫金沢支店との 産学連携の協力推進に係る協定締結

2011.6.22

平成23年6月22日(水)、金沢大学イノベーション創成センターと商工組合中央金庫金沢支店との産学連携の協力推進に係る協定が締結されました。

本協定は、本センターの研究成果等を地域社会に一層円滑に還元し、地域の産学連携を推進するもので、地域中小企業等及び地域社会の発展に貢献することを目的としております。

本センターと商工組合中央金庫金沢支店に、産学連携の協力推進にかかる窓口を設置し、

・金沢大学イノベーション創成センターの研究成果等のシーズと地域中小企業等の技術ニーズとのマッチングのコーディネート

・商工組合中央金庫金沢支店の取引先企業からの技術相談に関する支援
・地域中小企業等の技術ニーズの情報収集及びそれに対する情報提供の支援を行います。

特許出願ができる！知財入門講座を開催

2011.6.23

平成23年6月23日(木)、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー510セミナールームにて、「特許出願ができる！知財入門講座」第1回目を開催しました。

本セミナーは、アイデアを持っている人、日頃より技術的課題を持っている人、知的財産に興味を持っている人、発明をベースにしてベンチャーを立ち上げたい人などを対象として、

- ①各人が持っているアイデアを絞り、発明として完成させる
- ②アイデアが特許になるか、自分で先行特許調査を実践する
- ③調査結果に基づき、発明のブラッシュアップを図る
- ④学生自身が発明者、特許出願人となり、実際に特許出願をする
- ⑤出願した知財を活用したビジネスモデルを考え、企業への売り込みを図り、任意でアントレプレナーへの参加を行う

上記①～⑤の研究開発から商品化までの一連のステップを実際に体験し、学生の自主性を育てることを目的に開催しております。

第一回目は、今後のスケジュールの流れ、過去の特許出願紹介、電子レンジやカップヌードルなどの身近な事例をとおしての発明の見つけ方などを、知的財産部門長 分部博より分かりやすい説明が行われました。

今年度は参加者は少人数でしたが、説明後に行われた質疑応答から、特許出願へのやる気の高さがうかがえました。

2回目以降は、年度末までの特許出願を目指して、知的財産部門が数回にわたり、個々の学生の相談に応じ、学生自らによる発明完成、その発明に係る特許出願書類の作成を支援していく予定です。



分部知的財産部門長によるオリエンテーション



2011.8.19

金沢大学新技術説明会を開催

金沢大学発!ライセンス可能な特許を発表!!

平成23年8月19日(金)、(独)科学技術振興機構JSTホール(東京市ヶ谷)にて「金沢大学新技術説明会」を開催し、材料・電子・環境分野の7件の大学発のライセンス可能な特許(未公開出願を含む)を発表しました。

本説明会では、各説明ごと相談コーナーも設けており、広く実施企業・共同研究パートナーを募り、研究開発・技術移転等を目指す機会を促進しております。

また、悪天候に見舞われましたが、今回を含み今年度開催されている全26回までのJST新技術説明会の中で、最多の参加申込を記録しております。

会場は、用意した座席をすべて埋め尽くすほど、盛況でした。



発表者は次のとおりです。

センサー

ピンホール型簡易分光器・バッテリーなしで

動作する無線湿気センサ

(理工研究域電子情報学系 准教授 北川 章夫)

環境発電

磁歪材料を用いた振動発電技術の実用化

(理工研究域電子情報学系 准教授 上野 敏幸)

電子材料

グラフェン・オン・ダイヤモンドの開発

～カーボンエレクトロニクス時代へ～

(理工研究域電子情報学系 助教 徳田 規夫)

環境・エネルギー

竹チップ発酵熱利用システム

～陸上養殖/土壌加温/穀物低温乾燥～

(理工研究域環境デザイン学系 教授 関 平和)

バイオ燃料

リグノセルロース及びバイオマス処理

(理工研究域自然システム学系 准教授 高橋 憲司)

省エネ

コンパクトなフィンレス気液熱交換器

～低圧力損失/高伝熱性～

(理工研究域機械工学系 助教 大西 元)

省エネ

冷凍システムで用いる磁気冷凍作業物質の開発

(理工研究域環境デザイン学系 准教授 大橋 政司)

イノベーション創成センター刊行物の紹介

平成22年9月以降、イノベーション創成センターからの刊行物は以下のとおりです。

入手ご希望の方は、事務局までご連絡ください。無料でお送りいたします。

- | | |
|---|-------------|
| 1 金沢大学イノベーションレポート Vol.3 | (平成22年9月刊行) |
| 2 金沢大学【研究分野別】シーズ集 | (平成23年2月刊行) |
| 3 Seeds Table Each Research Field KANAZAWA UNIVERSITY | (平成23年2月刊行) |
| 4 金沢大学産学官連携マガジン 襷 -TASUKI- No.3 | (平成23年3月刊行) |
| 5 金沢大学イノベーションレポート〈特集号 VBL年報2010〉 | (平成23年3月刊行) |

1 金沢大学イノベーションレポートVol.3

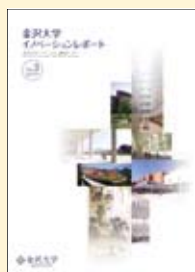
年1回
発行

○巻頭のことば

「産学官連携で地域は活気を取り戻せるのか!」

金沢大学イノベーション創成センター長 吉國 信雄

- 産学官連携推進本部及びイノベーション創成センターについて
- 金沢大学 大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)
- イノベーション創成センター特任教授・特任助教紹介
- 金沢大学産学官連携コーディネーター紹介
- 博士研究員紹介
- 客員教員紹介
- 産学官地域アドバイザー紹介
- 共同研究等について
 - 平成21年度共同研究一覧
 - JST A-STEP平成22年度 FSステージ 探索タイプ採択一覧
- 知的財産・特許について
 - 発明届出・特許出願状況
 - 研究成果有体物の譲与・受入状況
 - 平成21年度公開特許出願一覧
- 平成22年度VBL使用プロジェクト一覧
- 制度・支援
- 広報
- 刊行物の紹介
- 新聞報道記事紹介
- ご案内



2 金沢大学【研究分野別】シーズ集

年1回
発行

- 金沢大学HPにある「教員総覧」に対応し作成され、1冊に集約しております。



その他

金沢大学イノベーション創成センター協会入会案内パンフレット
ご希望の皆様はイノベーション創成センター事務局までご連絡ください。

金沢大学イノベーション創成センター
TEL 076-264-6111 E-Mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

3 Seeds Table Each Research Field KANAZAWA UNIVERSITY

年1回
発行

- 英語版シーズ集 平成20年度より作成しております。



4 金沢大学産学官連携マガジン 襷 -TASUKI- NO.3

年1回
発行

- 文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)」の報告書として作成されたものです。平成20年度末に第一号を作成し今号で第三号となります。



5 金沢大学イノベーションレポート〈特集号 VBL年報2010〉

年1回
発行

- 巻頭のことば
 - 金沢大学イノベーション創成センター起業支援部門長 高橋 光信
- プロジェクト紹介
 - 平成22年度VBL使用プロジェクト一覧
- 博士研究員
 - 平成22年度博士研究員一覧
- 産学官地域アドバイザー
- 客員教授紹介
- 平成22年度VBL事業一覧
- FE-TEMおよびX線回析装置紹介
- VBLセミナー室紹介
- 委員会等



広報こまつ

2011.1より転載

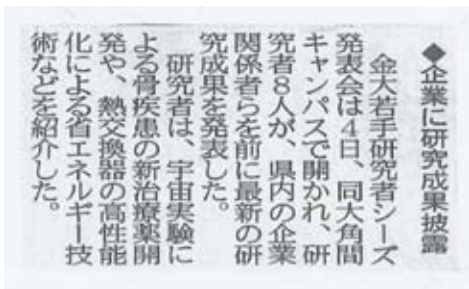


私たちがサポートします
 金沢大学イノベーション創成センターとは、企業との共同研究を担当していた旧共同研究センター、特許などを管理していた知財部門、ベンチャー企業の立ち上げを支援していた部門を再編して出来た学内組織です。そこに小松市と日本政策投資銀行が加わり、連携して立ち上げた組織が小松サテライトで、企業と大学との共同研究や新事業展開の窓口です。
 金沢大学は、総合大学として幅広い研究テーマと約1000人の教員・研究者を抱えています。最近では中小企業との共同開発も活発に行っています。大学での研究成果や総合的技術力を民間事業者の皆さんに積極的に活用していただきたいと考えています。

右から金沢大学イノベーション創成センターの渡辺さん、長江さん、日本政策投資銀行の仲倉さん

北國新聞

2010年(平成22年)11月5日(金曜日)



北國新聞

2011年(平成23年)1月27日(木曜日)



北國新聞

2011年(平成23年)2月21日(月曜日)

電気自動車の 能登島に

七尾市 当初予算案 産業誘致探る

七尾市の能登島で新年度、電気自動車(EV)産業の誘致と普及を図る「EV構想」が動き出す。同市は産学官連携でEV組立工場や実証実験の場として可能性調査に着手。成長が見込まれるEV産業の集積地に育てるとともに、「環境に優しい島」として観光活性化にもつなげる。



緊急雇用創出事業の。一部として、同市の新年度当初予算案に能登島電気自動車構想の推進可能性調査事業費765万円を盛り込んで、EV関連産業の誘致は石川県内の自治体では初めての取り組み。金大や金沢工大、金沢市内の自動車関連産業と連携して実施し、大学や企業を仲立ちするコーディネーターを1人雇用する。料を使わず、走行音が静かな次世代の自動車として、EVは国内各地の観光地や島嶼部などで普及活動が進む。長崎県五島市と新上五島町では昨年4月、県の主導でEV計100台と充電器を導入。環境保護と観光振興に活用している。大手メーカーなどは、同7月に鹿児島県屋久島でEVツアーを開始、今年2月には沖縄県内にレンタカー用EV220台を導入した。

レース開催も目指す

観光地で貸し出された電気自動車。能登島での産業誘致や普及の調査が始まる—昨年8月、鹿児島県屋久島

国内の先進事例から七尾市は、交通ルートが限られた能登島こそEVの普及が図りやすいと判断。産業誘致と平行して大学による島民の自動車の移動距離調査に協力し、将来の普及策に役立てる。能登島でのEVレース開催の実現も目指しており、同市は「電気自動車で産業と観光の双方から能登島振興を図る夢の第一歩にした」としている。

次世代カー「街づくりから」



金大フォーラム2011

経営者や研究者ら講演

金沢大は二十四日、金沢エクセルホテル東急で、次世代自動車について企業経営者や研究者らが講演する「金沢大イノベーションフォーラム2011」を開いた。(北浜修) 基調講演で、バス製メーカー、市民がどういう街づくりをするのかを考案する。交通システムを導入を進める前提として「国や自治体が必要だ」と指摘した。

今後の次世代自動車の動向については「環境意識が高い先進国では普及するが、新興国では経済成長が優先するため、一部の電気自動車にとどまるのではないか」との見方を示した。

講演するジェイ・バスの柴田社長—金沢エクセルホテル東急で

北陸中日新聞

2011年(平成23年)2月25日(金曜日)

北國新聞

2011年(平成23年)2月25日(金曜日)

次世代自動車
基地をテーマに
金大フォーラム
「金大イノベーション
フォーラム2011」は24日、金沢市の
金沢エクセルホテル東
急で開かれ、企業や大
学関係者ら約160人
が基調講演やパネル討
論を通して、次世代自
動車について考えた。
「北陸に次世代自動
車基地を構築するため
に」をテーマに、光岡
自動車(富山市)、会
宝産業(金沢市)、ジ
エイ・バス(小松市)
の取り組みや、金大の
研究事例などが紹介さ
れた。

北國新聞

2011年(平成23年)6月17日(金曜日)

野口宇宙飛行士
来月金沢で講演
金大とJAXA
金大と宇宙航空研究
開発機構(JAXA)
の連携シンポジウム
「金沢発、宇宙への夢
・きぼう」は7月2日
午後1時半から、金沢
市文化ホールで開かれ
る。宇宙飛行士の野口
聡一さんが講演し、国
際宇宙ステーションで
の滞在の様子などを報
告する。
金大の研究者らは宇
宙実験や、宇宙探査機
に搭載される機器など
について解説する。パ
ネルや模型も展示さ
れる。参加無料で、希
望者はJAXAのウ
ェブサイトかファク
スで事前申し込みが必
要。

北國新聞

2011年(平成23年)6月23日(木曜日)

商工中金と金大
産学連携で協定
商工中金金沢支店と
金大イノベーション創
成センターは22日、産
学連携の協力推進にか
かる協定を締結した。
同支店は取引先約80
0社と金大が持つ技術
と研究を結びつけ、新
製品開発などを後押し
する。

北國新聞

2011年(平成23年)7月3日(日曜日)



野口さんが
宇宙を語る
金沢でシンポジウム
金大と宇宙航空研究
開発機構(JAXA)
の連携シンポジウム
「金沢発、宇宙
野口さんは、宇宙での
への夢・きぼう 活動を映像で紹介し
う」は2日、金 「宇宙実験の成果をわ
れわれの暮らしにとど
で開かれ、宇宙 役立てていくかが大事
飛行士の野口聡一」と強調した。
「さん」写真
金大環日本海研究セ
ンターの鈴木信雄准教
授は、金魚のつろこを
使って野口さんが実施
した宇宙実験で、骨を
壊す「破骨細胞」の活
性が確かめられたこ
となどを報告した。

北國中日新聞

2011年(平成23年)7月3日(日曜日)

地球を外から見たかったら

宇宙飛行士 野口さん講演

ロボットアーム操作など説明

シンポジウム「金沢発、宇宙飛行士の野口聡一 際宇宙ステーション(1) 発、宇宙への夢・きぼう さんが講演した。 JAXA に滞在し、科学実 験やロボットアーム操作などについて、野口さんは「2009年 験やアーム取り付け作業 町の市文化ホールで、12月から5月期間、国 を行った。通算宇宙滞在 多数紹介した。

「宇宙での実験や作業 はほとんど身近になっ てきている」と野口さん。 これから実験の成果を 普段の生活や健康などに いかにつなげるかが 大事」と訴えた。会場か らの質問に対し「ずっと 外から地球を見てみたい と思っていた」と宇宙飛 行士を目指した動機も話 した。

(山田祐一郎)

期間は百七十七日以上と 現在、日本人最長となっ ている。 講演では、滞りの様子 が映像で流され、野口さ んがロボットアームを傾 重に動かしたことを報告 した。「宇宙からは 日本は夜景がともまれ ている」と野口さん。 「自分も宇宙で撮影した 世界の写真もスライドで 多数紹介した。

「宇宙での実験や作業 はほとんど身近になっ てきている」と野口さん。 これから実験の成果を 普段の生活や健康などに いかにつなげるかが 大事」と訴えた。会場か らの質問に対し「ずっと 外から地球を見てみたい と思っていた」と宇宙飛 行士を目指した動機も話 した。

(山田祐一郎)

宇宙での生活をたっ いて話す野口聡一さん 金沢市文化ホールで

週間 文教ニュース

平成23年7月25日(月曜日)第2147号より転載



講演する長野理事



参加者の質問に答える野口宇宙飛行士



熱心に発表を聞く約260名の参加者

金沢大
JAXAと連携シンポ「金沢発、宇宙への夢」

金沢大は7月2日、金沢市内において、金沢大・JAXA連携シンポジウム「金沢発、宇宙への夢」を開催し、県内外から約260名が参加した。

これは、広く市民や企業の方に最先端の宇宙科学研究の一端を紹介するとともに、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の現状や今後の展開などについて理解を深めてもらうことを目的として、同大学とJAXA（宇宙航空研究開発機構）が共同で開催したもの。

中村信一学長のあいさつの後、同大学から長野勇理事（研究・国際担当）・副学長をはじめ最先端の宇宙研究に携わる6名の研究者による講演、JAXAから野口聡一宇宙飛行士による「第22/23次ISS長期宇宙滞在報告」や科学研究所宇宙輸送工学研究系の中均教授による「はやぶさミッション」の紹介などがあつた。

世界が注目する取り組みを分かりやすく紹介したそれぞれの講演に、シンポジウム参加者からは熱い質問が相次いだ。

北國新聞

2011年(平成23年)8月21日(日曜日)

東京で金大研究者
最新の研究を発表

金大と科学技術振興機構の新技术説明会は19日、東京・市ヶ谷の科学技術振興機構JSTホールで開かれ、金大の研究者7人が、バッテリーなしで動作する無線湿度センサーや磁歪材料を用いた振動発電技術など、最新の研究成果を発表した。

約330人が参加、未公開特許に注目が集まった。吉國信雄金大インベーション創成センター長、小原満穂科学技術振興機構理事、平野武嗣金大TLO社長らがあいさつした。

科学技術相談について

科学技術相談は、技術面での情報収集や共同研究に向けての最初のとっかかりとして、とても有効なものです。

本センターでは、随時無料にて、相談を受け付けておりますので、お気軽にイノベーション創成センター事務室までお電話またはE-Mail (innov@adm.kanazawa-u.ac.jp) にてご連絡ください。

技術アドバイスサービスについて

金沢大学イノベーション創成センター協力会
技術アドバイスサービス

技術アドバイスサービスは、無料の技術相談と共同研究の両方を
うめ、よりきめの細かいサービスを行うために、金沢大学イノ
ベーション創成センター協力会のご協力をいただき実施してい
るものです。

これまで、金沢大学では、学内の先生方の協力をいただき、無
料の技術相談を行ってきました。具体的にはイノベーション創
成センターの教員、コーディネータには学内の専門の先生方
が、大学の相談窓口となって、企業様の抱えていらっしゃる問
題をお伺いし、専門の範囲内でのご相談に乗ってきました。

その結果、解決の方向が見え、その実施にあたり、専門の先生
のノウハウが必要とされる場合には、共同研究として、更につ
きご支援をさせていただきます。

共同研究は大学の研究者が興味を持つテーマが選ばれるのが
普通であり、有料であるとともに、必然として研究的性格が優
先されてきました。共同研究に対してのこのような取り組み方
が、「大学は教員が高い」といわれる所以でもありました。

技術アドバイスサービスは、研究テーマとならないけれども、
専門知識を必要とする実用的な事情についても、相談に乗っ
て欲しいという企業様からのご要望に応えようと、金沢大学イ
ノベーション創成センター協力会のご支援の下サービスを開始し
たものです。

技術アドバイスサービスのメリットは、企業様にとって

- ① 共同研究に比べ手軽に利用できる
- ② 費用も相談に安く上がる
- ③ 短期間にそれなりの回答（アドバイス）が得られる

又、大学の研究者にとっては、

- ① 実用性の高い研究ができる
- ② 作業も限定されており、気軽に自分の専門を生かせる
- ③ 机上作業の費用は出る
- ④ 企業様の最近の動向が分かる

と双方にとって、メリットがあるものです。是非有効に活用し
ていただければと思っております。

技術アドバイスサービスの流れ

1 技術アドバイスサービスは、原則として
「1～2段階の進捗を2回」予定しており、
費用は3万円となっております。

1 回目

技術アドバイスサービスの1回目は技術相談と
似ております。
研究者とコーディネータが企業の抱えている事
件について詳細に伺います。その際、その案件
の課題点・解決策・将来性を明らかにするこ
を目的とし、確認を行います。
(納期の確認を済む)

↓

研究者はそこで、確認した事項に関し、過去の
経験を生かして、原因を列挙し、問題点の整理
を行います。

2 回目

二回目の打ち合わせでは、研究者が整理した、問題
点もしくは解決策（アドバイス）について、企
業様にご説明いたします。

借金沢大学イノベーション創成センター協力会
加入の企業様には、年会費の一部を、サービス
費用へ振り替え可能な特典があります。

お問い合わせ先
金沢大学イノベーション創成センター協力会
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL.076-264-6111 FAX.076-234-4019
E-mail: innov@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学イノベーション創成センターホームページ (<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>) では、メールフォームによる各種ご相談及び「技術アドバイスサービス」の申込を随時受付けております。
こちらからは、申込書のダウンロードも可能です。

また、金沢大学イノベーション創成センター協力会ホームページ (<http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/>)
では、随時入会のご案内も行っております。是非ご覧ください。

技術アドバイスサービス申込書

金沢大学イノベーション創成センター協力会 殿

下記のとおり技術アドバイスを申し込みます。

申 込 者	企業等名				
	所属・職名			ふりがな	
				氏名	
	連絡先	住所	〒		
TEL		()	-		
FAX		()	-		
	E-mail				
アドバイス分野(○で囲んでください) エレクトロニクス 環境・エネルギー 機械 材料(ナノ) ソフトウェア 土木建築 バイオ その他() 担当希望教職員名(できれば記入してください)					
アドバイス概要(具体的に記入してください)					
問題の背景・狙い:					
対象範囲:					
納期・期限:					
その他:					
協力会記入欄(※記入しないでください)					
提 出 先	金沢大学 イノベーション創成センター協力会 〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL 076-264-6111 FAX 076-234-4019 E-mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp		※記入しないでください		
	受付日	協力会担当	アドバイス担当教職員		

共同研究について

企業等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度です。

共同研究を行う上で、テーマ・担当教員・進め方等が具体的にお決まりでない場合は、イノベーション創成センターに一度ご相談ください。専任教員とコーディネータが、研究者とのコーディネートを行います。

1. 共同研究の形態

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行うタイプの『派遣型』、本学の教員と企業等の研究者が、共通の研究課題について研究を分担し、それぞれの施設において研究を進めるタイプの『分担型』があります。

2. 共同研究に必要な経費

企業等に負担していただく経費は、次のようになっています。

研究料	企業等の研究者の受入れに必要な経費。 1年度1人につき420,000円。(ただし、研究期間が6ヶ月以内の場合は210,000円。)
直接経費	共同研究遂行に必要な謝金、旅費、消耗品・設備購入費などの直接的な経費。
間接経費	直接経費の5%

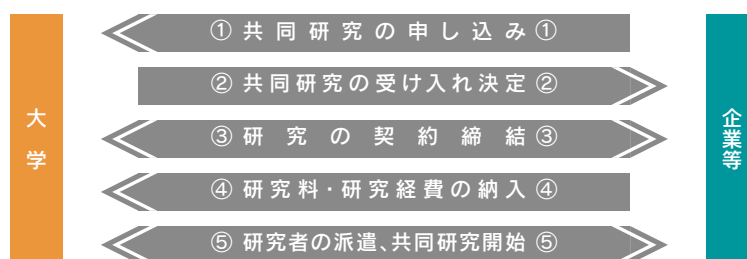
3. 共同研究に使用する施設、設備等

本学及び企業等で使用する施設、設備の維持・管理に必要な経費(経常経費)は、それぞれが負担します。

4. 本学への申込時期

随時可能です。

5. 共同研究の実施手順



共同研究の「申込書」は、以下のURLどちらからでも、ダウンロードが可能です。

お
問
合
せ
先

共同研究に関するご相談について

金沢大学イノベーション創成センター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL:076-264-6111
FAX:076-234-4019
E-mail : innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL : <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

共同研究の手続き・申込みに関するお問い合わせ

金沢大学研究国際部産学連携課
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL:076-264-5904
FAX:076-234-4012
E-Mail : sangaku@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL : http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_kyoryoku/co_research/kyodou/kyoudou.html

共同研究申込書

年 月 日

国立大学法人金沢大学長 殿

申込者

〒

住 所

企 業 等 名

代表者職・氏名

⑩

金沢大学共同研究取扱規程を遵守の上、下記のとおり共同研究を申し込みます。

記

1 研究の形態	ア	金沢大学における共同研究			
	イ	金沢大学及び企業等における共同研究			
2 研究題目					
3 研究目的及び内容					
4 研究期間	平成 年 月 日から平成 年 月 日まで				
5 研究に要する経費の負担額(総額分) (消費税及び地方消費税を含む)	直接経費	円			
	間接経費	円			
	研究料	円			
	合計	円			
6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	
	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	直接経費 千円 研究料 千円	
7 研究実施場所	金沢大学				
	企業等				
8 企業等共同研究員	所 属 ・ 職	氏 名	派遣の有無		
			有 無		
9 希望する研究担当教員	所 属	職	氏 名		
10 提供設備等					
11 その他	担当者, 連絡先等				
	電話	()	—		
	FAX	()	—		
	e-mail	[]	

申込書記入要領

1 研究の形態

企業等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行う場合(派遣型)は、「ア」を○で囲んでください。

本学の教員と企業等の研究者がそれぞれの施設において研究を行う場合(分担型)は、「イ」を○で囲んでください。

4 研究期間

希望する研究期間を記入してください。

5 研究に要する経費の負担額(総額分)(消費税及び地方消費税を含む)

直接経費は、共同研究遂行のために、特に必要となる謝金、旅費、消耗品費、設備購入費等の直接的な経費の合計額を記入してください。

間接経費は、直接経費の5%を計上願います。

研究料は、企業等が本学に研究者を派遣する場合に必要な共同研究員研究料を記入してください。

※間接経費の計算例

直接経費が1,000,000円の場合の間接経費の額は、50,000円となります。

$1,000,000円 \times 0.05 = 50,000円$

研究経費(直接経費+間接経費)が1,000,000円の場合の間接経費の額は、47,600円となります。

$1,000,000円 \times 5 / 105 \div 47,600円$ (百円未満切捨て)

6 2事業年度以上にわたる研究の場合は次年度以降の直接経費及び研究料の全体計画

この欄は、研究期間が複数年度で、上記の「5研究に要する経費の負担額(総額分)」を年度毎に分割してお支払いになる場合に記入してください。(一括してお支払いになる場合は、記入の必要はありません。)

8 企業等共同研究員

「所属・職」欄は、所属部署及び役職名を記入してください。

「派遣の有無」欄は、研究の形態が「ア金沢大学における共同研究」の場合は「有」を、「イ金沢大学及び企業等における共同研究」の場合は「無」を○で囲んでください。

10 提供設備等

企業等から、本学への貸与設備がある場合に、設備の名称、規格及び数量を記入してください。

記入例:原子吸光光度計 (株)〇〇社製 A100 1式

金沢大学イノベーション創成センター 協力会のご案内

金沢大学イノベーション創成センター協力会は、金沢大学イノベーション創成センターの事業を支援し、金沢大学と産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流を進めることを目指し設立された団体です。

会員企業の皆様の相互の意見交換のみならず、大学のイベント、広報物の情報を随時発信いたします。

また、会員企業の皆様に本学の学生並びに教員に対するご発表の場も設けさせていただいております。

今後は、会員企業様と大学の関係をより強化するため、研究シーズのご紹介や産学官に関するフォーラムのお知らせ等を積極的に行って参ります。

要項

【会員】会員は本会の事業に賛同する法人または団体等とします。

【会費】会費は、年会費一口3万円とします。

【設立】平成13年7月

活動

- ・産学連携コーディネーターの支援強化
- ・技術アドバイスサービスの実施
- ・イノベーション創成センターと共催し、セミナー・講演会の実施
- ・各種説明会の開催
- ・各種イベントへの参加
- ・企業等への見学、実情視察
- ・刊行物の発行
- ・その他

入会のメリット

- (1) 大学から企業様へのご案内(技術研究情報・イベント・セミナー等)だけではなく、企業様自身のイベント案内にもご利用いただけます。
※営利目的でのご利用はご遠慮ください。
- (2) 有益な公的資金情報をご紹介すると同時に、資金獲得に向け大学との連携の検討等を含め申請のサポートをいたします。
- (3) 会員企業様に対しては、各種のご相談を受け付けます。
ご相談には、誠意を持って対応させていただきます。お気軽にご相談ください。

- (4) 専門知識を必要とするご相談には、技術アドバイスサービスが有効です。最適な教員をご紹介しますし、対応させていただきます。
入会企業様には、技術アドバイスサービスの実費の一部を、協会よりサポートさせていただきます。
- (5) 会員企業様HPをリンク掲載し、ご紹介いたします。簡単な企業PRも一文掲載可能ですので、お気軽にご相談ください。

入会申込方法

金沢大学イノベーション創成センター協力会の主旨に賛同され、入会をご希望される方は、下記事務局までご連絡ください。また、HP メールフォームからのお申し込みも可能です。お申し込みが確認でき次第、事務局より内容確認と会費の振り込み方法を、郵送または電子メールでご連絡いたします。

金沢大学
イノベーション創成センター
協力会事務局

〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学イノベーション創成センター内
Tel 076-264-6111 Fax 076-234-4019
E-Mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/ccr/kyouryokukai/>

金沢大学産学官連携関係者一覧

産学官連携推進本部

長野 勇	本部長 金沢大学理事(研究・国際担当)・副学長
吉國 信雄	副本部長 イノベーション創成センター長・将来開拓部門長
谷内江昭宏	学長補佐
生田 省悟	人間社会研究域長
山崎 光悦	理工研究域長
山本 博	医薬保健研究域長
瀧本 昭	イノベーション創成センター副センター長
渡辺 良成	イノベーション創成センター連携研究推進部門長
分部 博	イノベーション創成センター知的財産部門長
高橋 光信	イノベーション創成センター起業支援部門長
小川健一郎	イノベーション創成センター特任教授
千葉 正	研究国際部長
今出 清勝	産学連携課長
平野 武嗣	(有)金沢大学ティ・エル・オー代表取締役社長

イノベーション創成センター

吉國 信雄	センター長 将来開拓部門長 教授
瀧本 昭	副センター長 (理工研究域機械工学系教授)
渡辺 良成	連携研究推進部門長 教授
分部 博	知的財産部門長 准教授
高橋 光信	起業支援部門長 (理工研究域物質化学系教授)
小川健一郎	特任教授
平子 紘平	特任助教
阿部 寛	博士研究員
畔原 宏明	博士研究員
伴場 同子	研究員
松橋江里香	研究員
矢野 弘	協会会事務局長
加藤真由美	事務室
川江 一枝	事務室
塚林 美沙	事務室
徳井 佳子	事務室

(客員教授)

飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部、 大学院社会情報学研究科 教授
奥野 信男	
小林 洋子	内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付参事官 高齢社会対策担当 仕事と生活の調和推進室 子ども若者・子育て施策総合推進室
坂井 茂樹	(株)商工中金経済研究所 取締役所長
斯波久二雄	(株)BM総研 吹田事務所長
瀬領 浩一	
多喜 義彦	システム・インテグレーション(株) 代表取締役社長
中井 純	(株)アットワイヤレス 代表取締役社長
平野 武嗣	(有)金沢大学ティ・エル・オー 代表取締役社長

産学官連携コーディネーター

長江 英夫 金沢大学産学官連携コーディネーター

産学官地域アドバイザー

粟 正治	
奥野 信男	
川島ひろ子	石川県保健環境センター 技監
嶋田 雄吾	金沢市産業局ものづくり産業支援課 主任主事
高尾 浩久	野村證券(株)金沢支店 次長兼企業金融課長
仲倉 修	(株)日本政策投資銀行北陸支店 企画調査課長
西村 和也	(株)北國銀行営業統括部営業サポート課 課長代理
西村 聡	(財)石川県産業創出支援機構 プロジェクト推進部長
林 欽也	一般(財)日本情報経済社会推進協会 プライバシーマーク審査員
舟津 泰雄	金沢信用金庫 経営支援部長
増山 和人	(株)北陸銀行支店部石川地区事業部 調査役
水口由紀夫	富木医療器(株)ラボラトリー営業部 専任部長
吉田 達也	小松市経済環境部 商工労働課長

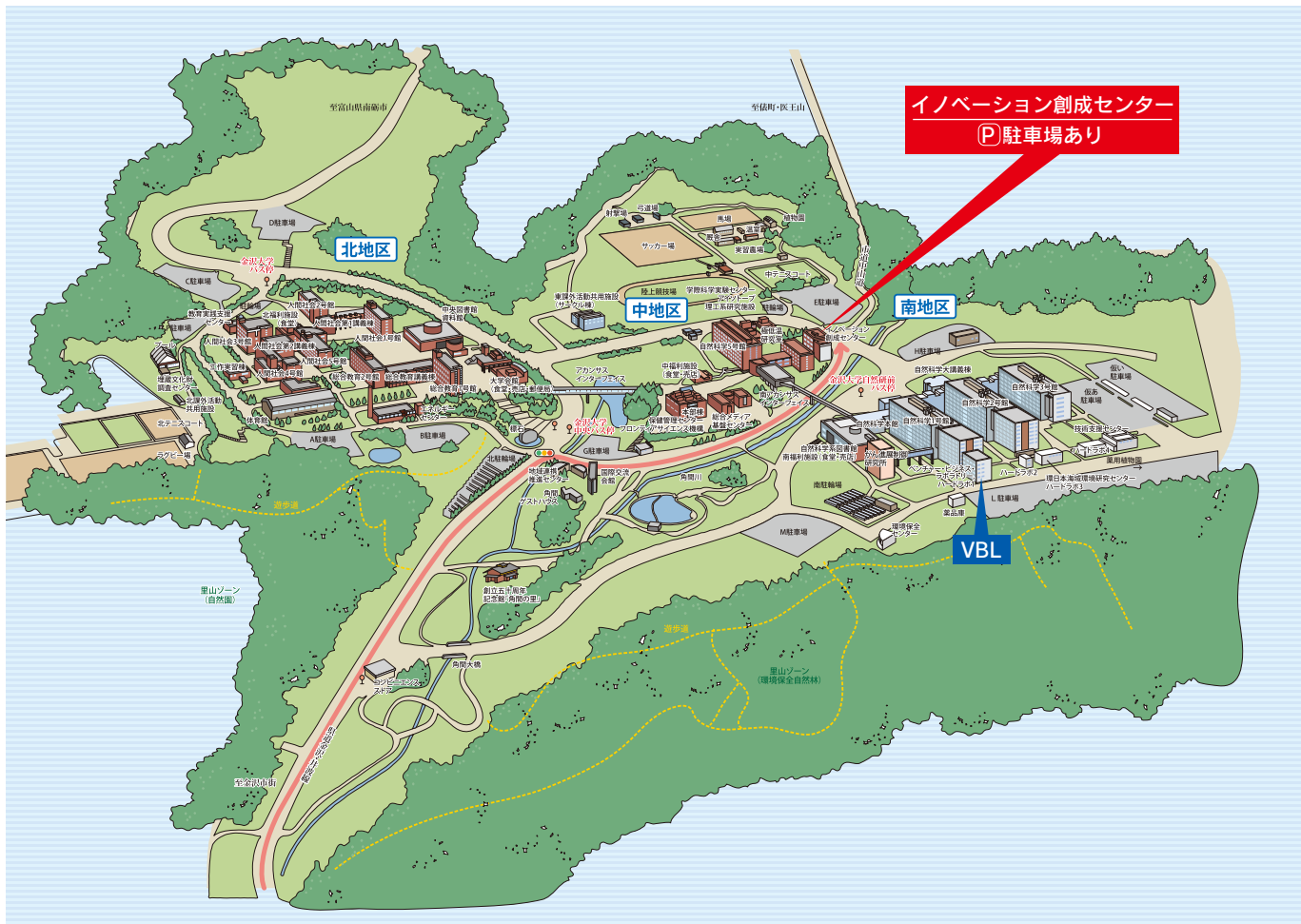
研究国際部

千葉 正	研究国際部長
今出 清勝	産学連携課長
廣瀬 敏之	産学連携課副課長
西尾都代子	産学連携課産学連携係長
大板 聡子	産学連携課産学連携係主任
中出 有美	産学連携課産学連携係
米澤 知穂	産学連携課産学連携係
京谷 由紀	産学連携課知的財産係長
近藤 哲也	産学連携課知的財産係
平子ゆかり	産学連携課知的財産係
藤井 彰子	産学連携課知的財産係

(有)金沢大学ティ・エル・オー(KUTLO)

平野 武嗣	代表取締役社長
村上 清史	取締役(金沢大学名誉教授)
中村 尚人	取締役 シニア ライセンシング・アソシエイト
濱田 昌一	監査役(金沢大学監事)
木下 邦明	ライセンシング・アソシエイト
吉田 真弓	ライセンシング・アソシエイト
山田 光俊	ライセンシング・アソシエイト
渡辺奈津子	ライセンシング・アソシエイト
表 真佐美	総務・経理担当
濱本 寛	シニア・アドバイザー
奈良 俊彦	シニア・アドバイザー

平成23年10月1日現在



金沢大学イノベーション創成センター
 〒920-1192 石川県金沢市角間町
 Tel.076-264-6111(代表) Fax.076-234-4019
 E-mail innov@adm.kanazawa-u.ac.jp
 URL <http://www.innov.kanazawa-u.ac.jp/>

金沢大学イノベーション創成センター 小松サテライト
 〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地
 小松市役所 2F 経済環境部商工労働課内
 Tel.0761-24-8074 Fax.0761-23-6404